

平成27年度

大磯町教育委員会の点検・評価

(平成26年度対象)

大磯町教育委員会

平成27年11月

目次

はじめに

1	教育委員会とは	P 2
2	点検・評価の趣旨	P 3
3	点検・評価の対象	P 3
4	点検・評価の流れ	P 4

I 教育委員会の活動についての点検・評価

1	平成 26 年度教育委員会活動一覧	P 5
2	項目別活動状況	P 6
3	項目別点検・評価（内部評価）	P 2 6
4	学識経験者による評価（外部評価）	P 3 0

II 「平成 26 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1	義務教育	P 3 8
2	子育て支援	P 4 3
3	生涯学習	P 4 9
4	図書館	P 5 3
5	郷土資料館	P 5 7

III 資料編

1	関係法令	P 6 0
2	「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス	P 6 0
3	平成 26 年度教育委員会基本方針	P 6 1

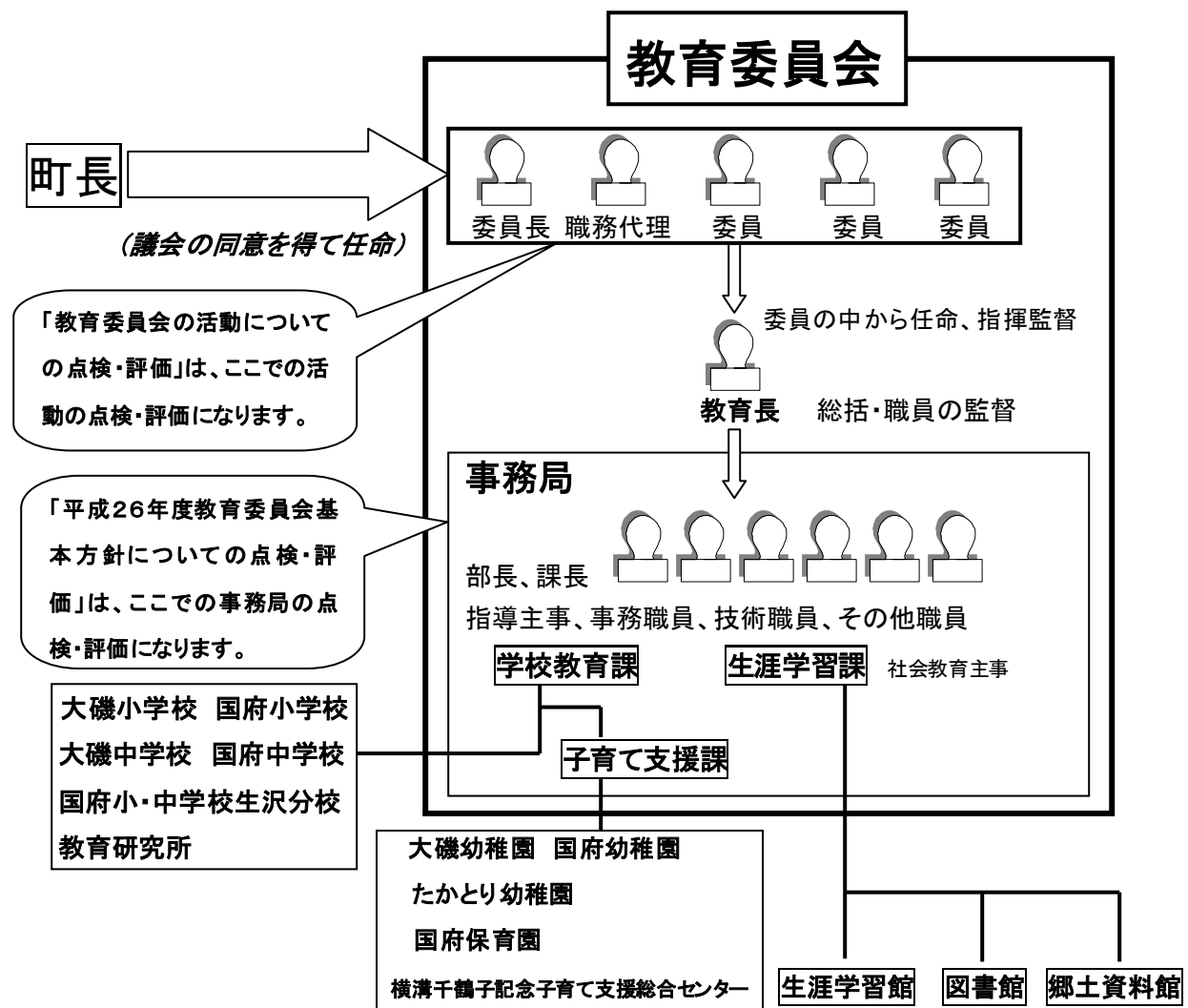
はじめに

1 教育委員会とは

(1) 教育委員会制度（平成 27 年 3 月までの平成 26 年度教育委員会制度）

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県、市町村等に設置される合議制の執行機関です。

- 大磯町教育委員会は、5 人の委員から構成されています。
- 大磯町教育委員は、町長が議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は 4 年で、再任されることもできます。
- 委員長は、委員の中から互選で選ばれ、教育委員会を代表し、教育委員会の会議を主宰します。委員長の任期は 1 年ですが、再任されることもできます。
- 教育委員会の権限に属する事務を処理するため、教育委員会に教育長と事務局が置かれています。
- 教育長は、委員長以外の委員の中から教育委員会が任命します。教育長は、教育委員会の指揮監督の下、すべての事務をつかさどります。
- 事務局は、教育長の統括のもと、教育委員会の権限に属する事務を処理します。事務局の組織は、それぞれの教育委員会の規則で定められています。



(2) 教育委員会の仕事

- ・学校その他の教育機関の設置、管理、廃止、教育財産の管理に関すること。
- ・教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ・学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童の入学、転学及び退学の事務、また、幼児の入園、転園及び退園の事務に関すること。
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- ・教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- ・校長、教員その他の教育関係職員の研修、教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全厚生及び福利に関すること。
- ・学校給食に関すること。
- ・保育の実施に関すること
- ・子育て支援に関すること
- ・青少年教育、文化財の保護及びその他社会教育に関すること。
- ・教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- ・教育行政に関する相談に関すること。
- ・その他「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に規定されている教育事務に関すること。

2 点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

本町教育委員会では、法改正の趣旨が教育委員会の責任体制を明確化することにより、効果的な教育行政の推進と地域住民への説明責任を果たすことであると捉え、「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

3 点検・評価の対象

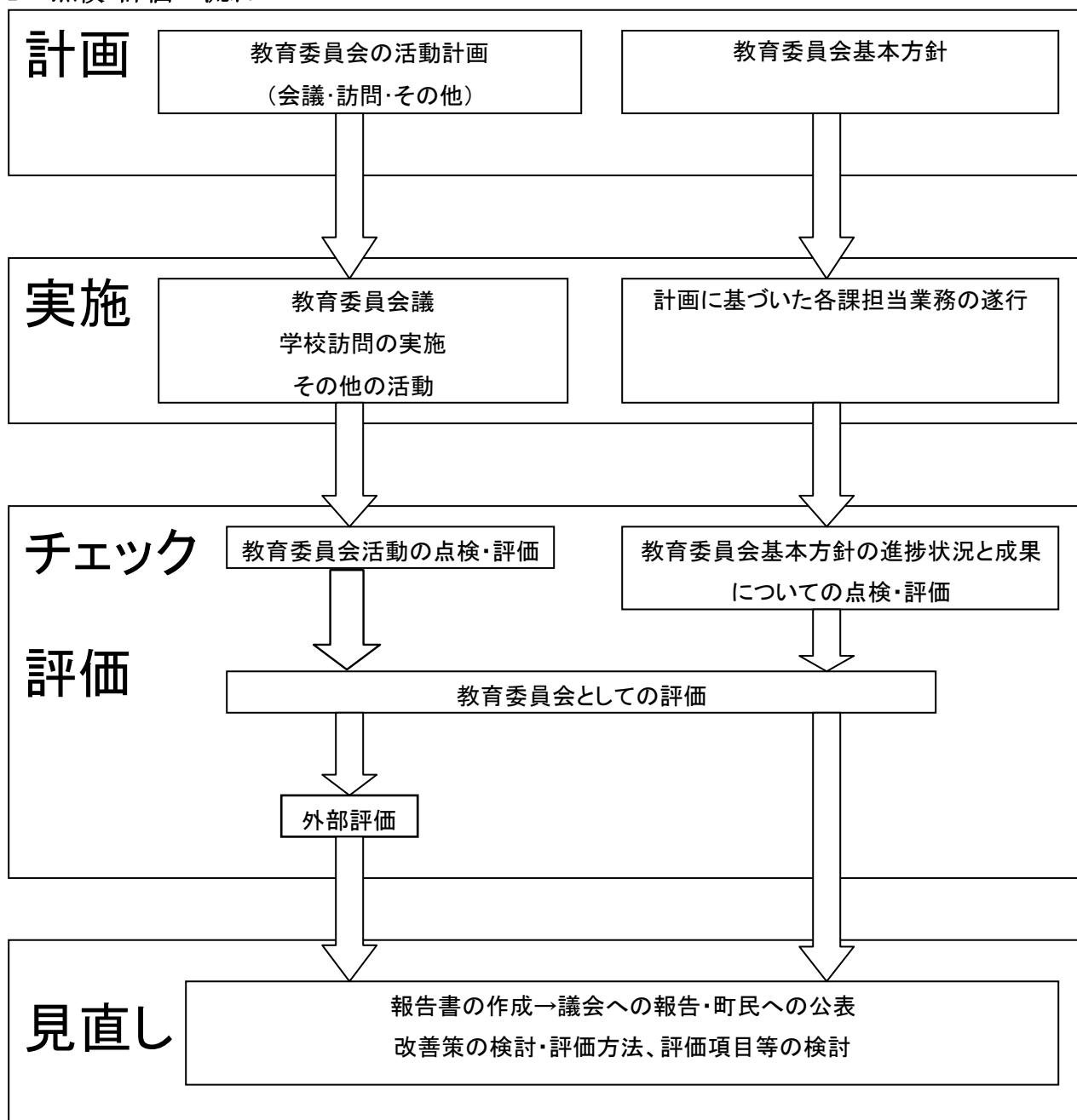
(1) 教育委員会の活動についての点検・評価

平成 26 年度の教育委員会の活動を項目別に点検し、自己評価及び課題・改善点等についての内部評価を行い、その後、学識経験者から内部評価の妥当性や指導・助言など外部評価をいただきました。

(2) 「平成 26 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

平成 26 年度教育委員会基本方針に掲げられている各分野の目標に対する重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策について、その実施状況を点検し、実施状況及び成果と課題をまとめ、その後、教育委員による評価を行いました。

4 点検・評価の流れ



I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成26年度教育委員会活動一覧

会議名		内 容 等
教育委員会議	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	4回（9月、11月、2月、3月）
事務連絡調整会議		13回（定例会・臨時会開催後及び適宜）
意見交換会・懇談会	PTA役員	平成26年度は未実施
	地域住民 保護者	3回 国府中学校「地域フォーラム」（8月2日） 国府小学校「地区懇談会」（9月1日） 大磯中学校「地域ふれあいの集い」（9月20日）
訪問	幼稚園 保育園	3回（7月、9月、2月）
	学校	5回（5月、6月、10月、11月、1月）
	行事等	運動会・体育祭、文化祭・保育発表会等、入学式・卒業式等、生涯学習関連事業、教育研究所関係事業、その他町行事等
その他の活動		神奈川県市町村教育委員会連合会総会・研修会 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会

2 項目別活動状況

(1)教育委員会議

平成26年度

第1回定例会〔平成26年4月17日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	平成25年度大磯町立中学校の生徒進路状況について
	報告事項第2号	平成26年度学級編制及び教職員の配置状況について
	報告事項第3号	第3回大磯町子ども・子育て会議について
	報告事項第4号	大磯町青少年指導員の委嘱について
	報告事項第5号	企画展「収蔵動物標本展」の開催について
	報告事項第6号	春季企画展「きらびやかな雛人形の世界」の実施結果について

第2回定例会〔平成26年5月22日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第1号	平成26年6月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第2号	平成27年度大磯町立小・中学校で使用する教科用図書の採択方針について
	議案第3号	大磯町子ども・子育て会議委員の委嘱について
	議案第4号	大磯町社会教育委員の委嘱について
	議案第5号	大磯町郷土資料館の臨時休館について
	議案第6号	大磯町立図書館協議会委員の任命について
報告事項	報告事項第1号	子育て世帯臨時特例給付金について
	報告事項第2号	大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用者ニーズ調査の調査結果及び大磯町子ども・子育て支援事業計画の概要について
	報告事項第3号	大磯町郷土資料館運営委員会の委嘱について
	報告事項第4号	工事請負契約の締結について

第3回定例会〔平成26年6月19日開催〕

事項	番号	案件名
請願審議	請願第1号	教科書採択地区についての請願
付議事項	議案第7号	生涯学習館の臨時休館について
報告事項	報告事項第1号	平成26年第2回（6月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	企画展「相模湾のウミガメ」の開催について
	報告事項第3号	おはなしボランティア講座の開催について

第4回定例会〔平成26年7月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第8号	大磯町立小学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第9号	大磯町立中学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第10号	教科用図書採択地区の変更に関する要望について
報告事項	報告事項第1号	第4回大磯町子ども・子育て会議の報告について
	報告事項第2号	企画展「収蔵動物標本展」の実施結果について

第5回定例会〔平成26年8月21日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第11号	平成26年9月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第12号	大磯町家庭の保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例について
	議案第13号	大磯町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例について
	議案第14号	大磯町保育の必要性の認定基準を定める条例について
	議案第15号	大磯町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例について
報告事項	報告事項第1号	平成25年度教育委員会所管決算見込みについて
	報告事項第2号	大磯町いじめ防止対策推進法への対応について
	報告事項第3号	大磯町立中学校給食の導入に向けての保護者説明会報告について
	報告事項第4号	第5回大磯町子ども・子育て会議の報告について
	報告事項第5号	工事請負契約の締結について
	報告事項第6号	大磯町合併60周年記念映画会について
	報告事項第7号	おはなしボランティア講座の実施結果について

第6回定例会〔平成26年9月25日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	町立幼稚園及び保育園の今後のあり方について
	協議事項第2号	(仮称)大磯町子ども・子育て支援事業計画素案について
報告事項	報告事項第1号	中学校部活動夏の大会結果について
	報告事項第2号	「中学校給食導入の方向性」についての保護者意見について
	報告事項第3号	第61回おおいそ文化祭の開催について
	報告事項第4号	防災ミッションの実施結果について
	報告事項第5号	大磯町合併60周年記念企画展「地図と風景写真から見る大磯」の開催について
その他		教育委員の職務について

第1回臨時会〔平成26年9月25日開催〕

事項	番号	案件名
陳情審議	陳情第1号	「大磯町立国府保育園で起きた人権問題についての陳情」
	陳情第2号	「体重と体重差グラフの可視化手法による、いじめ等の早期発見についての陳情」
付議事項	議案第16号	大磯町教育委員会委員長の選挙について
	議案第17号	大磯町教育委員会委員長職務代理者の指定について

第7回定例会〔平成26年10月16日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	平成26年度大磯町教育委員会の点検・評価(案)について
報告事項	報告事項第1号	平成26年第3回(9月)大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	「中学校給食導入の方向性」についての保護者意見について
	報告事項第3号	平成26年度行政評価の結果について
	報告事項第4号	第6回大磯町子ども・子育て会議の報告について
	報告事項第5号	子ども・子育て支援新制度説明会の報告について
	報告事項第6号	大磯町合併60周年第13回大磯図書館まつりの開催について
	報告事項第7号	大磯町合併60周年記念映画会の実施結果について
	報告事項第8号	企画展「相模湾のウミガメ」の実施結果について

第2回臨時会〔平成26年11月6日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	平成27年度教育委員会当初予算要求に係る協議について

第8回定例会〔平成26年11月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第18号	平成26年度大磯町教育委員会の点検・評価について
	議案第19号	平成26年11月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第20号	平成26年12月補正予算における教育委員会予算要求について
協議事項	協議事項第1号	大磯町いじめ防止基本方針（素案）について
報告事項	報告事項第1号	平成25年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について
	報告事項第2号	国府学童保育クラブの法人委託について
	報告事項第3号	町立幼稚園の応募状況について
	報告事項第4号	大磯町合併60周年記念事業いそっこフェスティバルの結果について

第9回定例会〔平成26年12月18日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	教科書採択地区の変更について
	報告事項第2号	小規模保育事業の実施について
	報告事項第3号	町立幼稚園に係るアンケート調査について
	報告事項第4号	平成26年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの開催について
	報告事項第5号	第61回おいそ文化祭の実施結果について
	報告事項第6号	図書館教養講座『湘南の考古学』の開催について
	報告事項第7号	大磯町合併60周年記念 第13回大磯図書館まつりの実施結果について
	報告事項第8号	郷土資料館運営委員の委嘱について
	報告事項第9号	郷土資料館リニューアルについて
	報告事項第10号	企画展「大磯の文化財」の開催について
	報告事項第11号	合併60周年記念企画展「地図と風景写真から見る大磯の実施結果」について

第10回定例会〔平成27年1月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第21号	平成27年度当初予算における教育委員会予算要求について
	議案第22号	地方教行政の組織及び運営に関する法律第24条の2第1項の規定に基づく職務権限の特例を定める条例の一部を改正する条例について
	議案第23号	大磯町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の校務災害補償に関する条例の一部を改正する条例について
	議案第24号	大磯町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例について
	議案第25号	大磯町保育所条例の一部を改正する条例について
	議案第26号	大磯町部等設置条例の一部を改正する条例について
協議事項	協議事項第1号	平成27年度教育委員会基本方針（案）について
	協議事項第2号	大磯町指定有形文化財の指定について
報告事項	報告事項第1号	平成26年第2回（11月）大磯町議会臨時会及び平成26年第4回（12月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	平成26年度文化財消防訓練の実施について
	報告事項第3号	児童文学講演会「てがみぼうやがとどくまで」の開催について

第3回臨時会〔平成27年2月2日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第27号	平成27年3月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第28号	平成27年度旧吉田茂邸再建事業に関する協定の締結について

第11回定例会〔平成27年2月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第29号	平成27年度大磯町教育委員会基本方針について
	議案第30号	平成26年度大磯町教育委員会表彰規程に基づく被表彰者の決定について
	議案第31号	大磯町子ども笑顔かがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ～の策定について
	議案第32号	平成27年度大磯町立幼稚園における休業日の変更について
	議案第33号	平成26年度旧吉田茂邸再建事業に関する協定の変更について
	議案第34号	平成27年度旧吉田茂邸再建事業に関する協定(案)の変更について
協議事項	協議事項第1号	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴う規則改正について
	協議事項第2号	大磯町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例施行規則について
報告事項	報告事項第1号	大磯町国府学童保育クラブ運営事業者選定委員会結果報告について
	報告事項第2号	第4回大磯Challenge Live の開催について
	報告事項第3号	平成26年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの実施結果について
	報告事項第4号	平成26年度文化財消防訓練の実施結果について
	報告事項第5号	図書館教養講座『湘南の考古学』の実施結果について
	報告事項第6号	企画展「昭和の子供たちー子供の遊びとくらしー」の開催について
	報告事項第7号	旧吉田茂邸再建工事着工報告会について

第4回臨時会〔平成27年3月10日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第35号	平成27年3月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第36号	県費負担教職員の任免に係る内申について

第12回定例会〔平成27年3月25日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第37号	大磯町いじめ防止基本方針について
	議案第38号	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う大磯町教育委員会規則の整備に関する規則について
	議案第39号	大磯町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について
	議案第40号	大磯町教育委員会公印規程の一部を改正する規程について
	議案第41号	大磯町立幼稚園園則について
	議案第42号	大磯町立幼稚園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
	議案第43号	大磯町立幼稚園保育料等徴収条例施行規則等を廃止する規則について
	議案第44号	大磯町立保育所使用規程を廃止する規程について
	議案第45号	大磯町教育委員会事務の補助執行に関する規則について
	議案第46号	大磯町指定有形文化財の指定について
	議案第47号	教育委員会事務局職員及び教育施設等の職員の人事異動について
協議事項	協議事項第1号	大磯町教科用図書採択検討委員会要綱について
報告事項	報告事項第1号	平成27年大磯町議会3月定例会について
	報告事項第2号	大磯町生涯学習推進会議の実施結果について
	報告事項第3号	児童文学講演会「てがみぼうやがとどくまで」の実施結果について
	報告事項第4号	企画展「大磯の文化財」の実施結果について
	報告事項第5号	旧吉田茂邸再建着工・御礼と報告の会の実施結果について

(2) 事務連絡調整会議

月日	項 目	内 容
4 月 17 日 第 1 回	1 平成25年度第5回教育委員会定例会会議録について 2 子育て支援に対する寄附金について 3 社会教育委員・図書館協議会委員・資料館運営委員の校長・園長会からの選任について 4 かながわ学びづくり推進地域研究事業について 5 生涯学習館施設の設計・工事等のスケジュールについて 6 大磯町指定有形文化財（慶覚院の仁王像）の移動について 7 大磯町郷土資料館の臨時休館について 8 大磯町における景観・観光資源の再生・利活用検討調査報告書について 9 ビーチフェスタ開催について	協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
5 月 21 日 第 2 回	1 学力学習状況調査に係る情報公開審査会の答申等について 2 学校警察連携制度に係る個人情報保護審議会の答申について 3 定例会会議録に関する町民要望書について 4 平成27年度教科用図書の採択における採択地区について 5 教科書採択地区に係る請願について 6 幼・保・小・中合同引き渡し訓練について 7 中学校運動会について 8 国府中学校修学旅行に係る案件について 9 教科用図書の調査研究について 10 子育て給付金に係る個人情報保護審議会の答申について 11 国府保育園に関する町民要望書について 12 旧吉田茂邸利活用検討委員会委員の委嘱について 13 高麗山神輿の実施結果について 14 ビーチフェスタへの協力について	協議・調整 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 出席者の調整 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
6 月 19 日 第 3 回	1 平成27年度教科書採択地区について 2 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱いについて 3 教育委員会の点検・評価について 4 学校警察連携制度について 5 居住不明児童生徒の実態把握について 6 姉妹都市協会事業（デイトン市来訪）の後援について 7 大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定について 8 町指定民俗資料「御船祭」の修繕に対する寄付金について 9 生涯学習館耐震補強・改修工事の入札結果について 10 防災ミッションについて 11 企画展の開催結果について 12 郷土資料館リニューアル実施設計委託の入札結果について 13 仮）旧吉田茂邸再建連絡調整会議について	協議・調整 協議・調整 説明 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
7 月 17 日 第 4 回	1 全国学力・学習状況調査結果の取り扱いについて 2 大磯町いじめ防止基本方針の策定について 3 教育委員会の点検・評価について 4 国府中学校修学旅行に係る案件について 5 中学校給食説明会について 6 町表彰審査委員会委員の推薦について	協議・調整 情報提供・報告 説明 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整

月日	項 目	内 容
7月17日 第4回	7 国府中学校における評価について 8 学校地区懇談会について 9 子ども・子育て支援新制度の施行に伴う各種基準を定める条例について 10 2歳児全戸訪問事業（案）について 11 大磯町国府学童保育クラブの法人委託について 12 防災ミッションについて 13 青少年だよりについて 14 合併60周年記念「コンピューターで未来の大磯を描いてみよう」について 15 （仮）旧吉田茂邸検討会議について	情報提供・報告 出席者の調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
8月21日 第5回	1 いじめ防止基本方針について 2 教育委員長選挙について 3 地方教育行政法の改正に係る条例・規則改正について 4 生徒部活動・夏の大会結果について 5 大磯小学校フェンス工事について 6 国府中学校における評価について 7 国府中学校修学旅行に係る案件について 8 寒川町教育委員会との懇談会について 9 子ども議会の開催について 10 学校・園行事（9・10月）予定出席調整について 11 教育委員会点検・評価について（委員評価の調整） 12 陳情（2件）について 13 町立幼稚園及び保育園の保育料について 14 寄附金に伴う備品購入の報告について 15 町立幼稚園及び保育園の今後のあり方について 16 大磯町合併60周年記念事業「いそっこフェスティバル」の開催について 17 防災ミッション（被災地訪問）の結果について 18 「合併60周年未来の大磯を描いてみよう！」について 19 生涯学習館の事故について 20 郷土資料館の工事について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 出席者の調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
9月25日 第6回	1 図書館空調工事請負契約の締結について 2 郷土資料館リニューアルの進捗状況について 3 大磯町旧吉田茂邸再建検討会議について 4 生涯学習館耐震補強・改修工事の進捗状況について 5 平成26年度全国学力・学習状況調査結果について 6 体力向上に向けた学校・園の取組み状況について 7 各学校の補助教材購入状況について 8 大磯町いじめ防止基本方針（案）について 9 国府中学校における評価について 10 教育委員会点検・評価について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整
10月16日 第7回	1 図書館空調改修工事の進捗状況について 2 旧吉田茂邸再建事業の進捗状況について 3 生涯学習館耐震改修工事について 4 大磯町いじめ防止基本方針（案）について 5 全国学力・学習状況調査の結果に係る情報公開請求について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整

月日	項 目	内 容
10月16日 第7回	6 平成27年度予算編成方針について 7 平成27年度教育委員会予算編成スケジュールについて 8 市町村教育委員会連合会研修会について 9 国府中学校体育館耐震診断結果について 10 台風18号・19号への対応について 11 国府小学校生沢分校人事について 12 国府中学校修学旅行に係る案件について 13 平成25年度「児童生徒の問題行動等指導上の諸問題に関する調査」結果について 14 認定こども園と小規模保育施設について 15 大磯一周駅伝大会コース変更について	情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
11月20日 第8回	1 行政情報非公開決定に対する異議申立てについて 2 平成26年度全国学力・学習状況調査結果分析検討委員会報告について 3 国府中学校修学旅行に係る案件について 4 国府中学校体育館耐震診断結果について 5 事故等発生時の対応について 6 地方教育行政法の改正に伴う条例・規則等の改正 7 中学校給食の意見書について 8 平成27年度大磯町教育委員会基本方針策定スケジュールについて 9 人権教育講演会の開催結果について 10 旧吉田茂邸再建事業の進捗状況について	情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告
12月18日 第9回	1 子ども・子育て支援新制度施行に伴う条例・規則等の制定改廃について 2 平成27年度当初予算査定状況について 3 平成27年度大磯町教育委員会基本方針（素案）について 4 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について 5 平成27年度全国学力・学習状況調査への参加について 6 地方教育行政法の改正に伴う条例・規則等の改正 7 中学生英文朗読大会開催（1月24日）のお知らせ 8 平成27年度学校管理職人事について 9 教職員の人事上の措置について 10 大磯中学校における評価について 11 国府中学校修学旅行に係る案件について 12 大磯小学校フェンス工事の件 13 文化財保護基金条例の制定について 14 町指定文化財の指定について 15 平成26年度文化財消防訓練の実施について 16 P T A連絡協議会役員との懇談会について 17 旧吉田茂邸の再建について 18 機構改革について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告
1月16日 第10回	1 3月補正予算について 2 国府学童保育クラブの法人委託について 3 社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホームにおける認定こども園の整備計画について 4 大磯町いじめ防止基本方針（案）について 5 体罰調査の実施について 6 国府小学校の児童指導体制について	事務局案の報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整

月日	項 目	内 容
1 月 16 日 第10回	7 国府小学校通知表の訂正について 8 大磯中学校における生徒指導対応について 9 国府中学校修学旅行に係る案件について 10 国府中学校生徒に関する案件について 11 国府小学校における給食対応について 12 成人式の報告 13 PTAとの懇談会について	情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整
2 月 2 日 第11回	1 国府中学校修学旅行に係る案件について 2 大磯中学校における生徒指導対応について 3 中学校給食の実施について	協議・調整 協議・調整 協議・調整
2 月 19 日 第12回	1 3 月臨時会の日程調整について 2 子ども笑顔応援団！について 3 卒業式及び文化・スポーツ優秀者表彰出席者調整 4 大磯町教科用図書採択検討委員会（仮称）設置要綱について 5 大磯中学校における生徒指導対応について 6 国府中学校修学旅行に係る案件について 7 生涯学習推進会議構成員の募集について 8 図書館空調改修工事について	協議・調整 情報提供・報告 出席者の調整 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告
3 月 25 日 第13回	1 教育委員会新制度による会議の流れについて 2 国府中学校修学旅行に係る案件について 3 国府中学校生徒に関する案件について 4 国府小学校の児童指導体制について 5 国府小学校給食のアレルギー対応について 6 大磯中学校の生徒指導対応について 7 大磯小学校給食の異物混入について 8 全国的に発生している教職員への脅迫事件について 9 辞令交付式について 10 入園式・入学式の出席調整について 11 関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会・研修会について 12 平成27年度教育委員会定例会等の日程について 13 教科書採択の日程について 14 委員報酬の支払い手続きについて	情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 出席者の調整 協議・調整 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告

(3)意見交換会・懇談会

①大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会

日 時	平成26年度は未実施
場 所	
事務局等参加者	
大磯町立学校PTA 連絡協議会参加者	
懇談会の主な内容	

②中学校地域フォーラム・地域ふれあいの集い・小学校地区懇談会への参加

日 時	平成26年8月2日(土)	
場 所	国府中学校 視聴覚室 (国府中学校地域フォーラム)	
日 程	PTA会長挨拶	13:00～ 14:40
	KDDIケータイ教室	
	質疑応答	
	学校長挨拶	
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	国府中学校保護者、地域の方(区長、民生児童委員、保護司、少年補導員等)、大磯警察署員、学校教職員等	
フォーラムの主な内容	○ KDDIケータイ教室 ・ ケータイはまり度チェック ・ スマホは小さいPC ・ インターネットの問題点 ・ フィルタリングを設定する ・ 家庭内ルールを決める ○ 質疑応答 ・ 親の影響も大きいと思う。親が持つと、子どもも持つようになる。親自身が責任を持たなければならない。 ・ 「ながらスマホ」をする大人の姿を子どもは見ている。 ・ 購入時にフィルタリングをかけていない場合も、あとからかけることができる。 ・ フィルタリング解除には、保護者の書面での承諾が必要になる。 ・ スマホには問題点もあるが、便利な部分もある。頭ごなしではなく、使い方を話し合って、便利に使うのがよい。	

日 時	平成26年9月1日(月)	
場 所	国府小学校 PTA会議室(国府小学校地区懇談会「月京地区」)	
日 程	参加者による懇談	14:00～ 15:30
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	国府小学校PTA地区校外委員、国府小学校教員 月京地区役員、民生委員、保護司、国府小学校保護者	
懇談会の主な内容	<p>○ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の放課後の行動範囲を親はどこまで理解しているだろうか？思いがけず遠い場所に遊びに行くことがある。行動範囲を把握した上で、(非常災害時の対応を)子どもと確認できれば良いと思う。 ・話を聞く、挨拶をすることで地域の方と触れ合う機会や顔見知りを増やす。 ・避難場所は理解していても、そこに行くまでのルートが心配。 ・通学路の改善、対応してほしい(何かあってからでは遅い)。 <p>○ 防犯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SOSの家や走るSOSなど、PTAで対処している。 ・学校では不審者侵入対応訓練を行うなど、万全の対応を整えている ・不審者情報等が地域の方へメール配信できないか？ ・親として、子どもに危機感をもたせたい。 <p>○ 地域のコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントは低学年のうちは喜んで参加するが、高学年になると他にやる事が重なり参加率が低くなる。 ・月京ではラジオ体操イベントを実施(2回)した。30～40人の参加者があった。好評ならば、次年度は回数も参加者も増やしていきたい。 <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・保護者・地域が集まって話をする場は大変貴重。できれば、この場での和やかな雰囲気地域全体に広がっていくとよい。地域で顔の見える関係づくりを構築していけば、様々な場面(防災・防犯・コミュニケーション)でプラスの効果が生まれる。 	

日 時	平成26年9月20日(土)	
場 所	大磯中学校体育館(大磯中学校地域ふれあいの集い)	
日 程	PTA会長挨拶 生徒会の発表 グループ別懇談 教頭挨拶	14:30～ 16:00
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	各地区役員、PTA役員、各地区保護者、民生児童委員 保護司、少年補導員、学校教職員等	
懇談会の主な内容	<p>○ 生徒会の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大磯町子ども議会 ・左義長のお手伝い ・夢のちか道の壁画制作 ・清掃活動 ・エコキャップ活動 ・サイクリングロード入口の壁の落書き消し ・総合防災訓練への参加 <p>○ グループ別懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭りの参加が増えてほしい。 ・中学生のいろいろな活動を知ることができてよかった。 ・歴史学習でもっと大磯に興味を持って知ってもらいたい。 ・大磯中の生徒は挨拶をよくしてくれる。 ・大磯中の生徒会は1年生でも生徒会で発言できる雰囲気がある。 ・生徒の自主的な参加を大人は広報活動で後押ししたい。伝統が引き継がれていってほしい。 	

(4)訪問

①学校・幼稚園訪問

訪問学校・園名	国府中学校	
日 時	平成26年5月22日(水) 13:20 ～ 16:00	
日 程	開会	13:20
	授業参観	13:30～14:20
	職員との懇談	14:40～16:00
	閉会	16:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>【担当者から教育活動の概要説明】</p> <p>① 教育課程について…教育課程の全体構想に、学びづくりの視点を明確に表現した。</p> <p>② 学校研究について… 人権教育の研究に取り組んできたが、学びづくりの視点を加えた。</p> <p>③ 各学年及びふれあい学級の生徒の様子</p> <p>〔1年〕 小学校との連携により、欠席傾向のあった生徒に対応した。中学校に入学し、気持ちをリセットしてがんばっている。</p> <p>〔2年〕 学習への支援は大切である。他市町と比べ、教育支援員の配置が充実しているのはありがたい。</p> <p>〔3年〕 穏やかで、男女の仲が良い。ときどきはめを外す。</p> <p>〔ふれあい〕 穏やかに過ごせている。入学前の6年生のときから授業参観で把握するように努めた。</p> <p>④ 教育相談関係・生徒指導について…今年も落ち着いている。保健室の養護教諭の存在が大きい。スクールカウンセラーが小学校からの継続として対応している。</p> <p>⑤ 健康面について…落ち着いていて、穏やかである。保健室には上の学年だけでなく、どの学年も来室できる雰囲気がある。</p> <p>【懇談】</p> <p>◇ 「学びづくり」のシラバスは良い物だと思う。保護者にPRできているか。シラバスの内容が家庭に伝わっているかが重要である。</p> <p>→ 5月1日に学年別に学びづくり説明会を開催した。評価や勉強の仕方など、教科面談でも活用している。進路説明会でも説明している。</p> <p>◇ 保健室の相談数や利用者数はどのような状況か。</p> <p>→ 平成25年度は1440名の来室があった。体調不良など内科的な訴えが836名、けがなど外科的な訴えが604名であった。5月の利用が最も多い。</p> <p>→ 人間関係の悩みから体調不良を訴える生徒が、女子に多い。</p> <p>◇ 生活習慣の乱れの話があったが、どのようなことか。朝食を食べてきているか。</p> <p>→ 習い事を遅い時間までやっており、睡眠不足の生徒が多い。スマートフォンでLINEなどをしていた寝るのが遅くなるという話も聞く。</p> <p>→ アンケートによると、およそ10人に1人が朝食を食べていない。</p> <p>◇ 中休みにミルクを飲むなどして、血糖値を上げる取組みがある。お昼前の授業にも集中して参加できるのではないかとと思うので、参考にお伝えする。</p> <p>◇ 作文の時間はあるか。書く力はどのような状況か。</p> <p>→ 各教科で言語活動の充実に取り組んでいる。社会科では、レポートを書かせている。</p> <p>→ 数学でホワイトボードを使って考え方の説明をする授業が今日もあった。レポートのほか、テストでも「説明しなさい」という問題が増えている。</p> <p>◇ 数学を少人数授業で行っていたが、どのように生徒を分けているか。</p> <p>→ 昨年の1年生は出席番号で分けていたが、今年は「定着」「発展」で分けている。本人が希望し、教員がアドバイスをしている。</p> <p>◇ 5年ぶりに国府中学校を参観した。5年前と違うのは、学校経営の方針が授業で見えたこと。</p>	

訪問学校・園名	大磯中学校	
日 時	平成26年6月19日(木) 13:10～16:30	
日 程	開会	13:10
	授業参観	13:25～14:15
	学校教育活動の概要説明	14:25～15:15
	職員との懇談	15:30～16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、各グループリーダー、養護教諭、事務主査	
	<p>【学校教育活動の概要説明】</p> <p>①教育計画・学校運営について…生徒は落ち着き、宿泊行事や部活動も充実している。</p> <p>②学校の概要について…学校評価については、生徒の評価項目「悩みなどを先生やスクールカウンセラーなどの大人に気軽に相談できますか」の評価が低く、課題である。</p> <p>③教育課程について…学習評価について職員研修を実施するとともに、保護者へも説明の機会を設けた。</p> <p>【懇談】</p> <p>◇運動会を参観したが、生徒が盛り上がりパワーをもらった。</p> <p>①各学年より</p> <p>〈1学年〉4月の遠足は、仲間づくりという目標を明確にして実施した。夏休みに総合的な学習として職場訪問を行う。学年行事として合唱に取り組むことを計画している。</p> <p>〈2学年〉昨年から生活班を活用した学級経営をしているが、落ち着き、コミュニケーションもとれている。(個別ケース2件について報告)</p> <p>〈3学年〉運動会では、最上級生としていいリーダーシップをとることができていた。今後は、進路・進学に目を向けていく時期になってくる。落ち着いて話を聴くことができる学年である。(個別ケース1件について報告)</p> <p>②各グループより</p> <p>〈学習指導グループ〉「よくわかる楽しい授業を目指して」をテーマに学校研究に取り組んでいる。全教員が公開授業を行う。生徒は授業に一生懸命取り組んでいる。</p> <p>〈生徒指導グループ〉生徒が主役になる生徒会活動を意識している。型どおりにやるのではなく、自分たちで考えてやるようにしていきたい。</p> <p>〈進路・支援グループ〉子どものニーズに応じた支援・連携を考えている。学校内での連携、外部機関との連携など「連携」がキーワードとなっている。</p> <p>〈保健・安全グループ〉掃除は全員が分担して行っている。いろいろ検討したり、試したりしたが、全員で行うのが一番という結論である。</p> <p>〈管理・情報グループ〉定期テストの結果を「努力のあしあと」として、年5回お知らせする。</p> <p>〈保健室〉保健室の利用は、4・5月は少なかったが、6月になって一日平均7名ほどが利用するようになっている。</p> <p>◇生徒は元気で、明るいと感じた。それでも悩みはあるだろう。どんな悩みの相談が多いか。</p> <p>→友人関係が一番多い。友だちに相談するのが多いだろう。保健室では、話をしている中で、LINE上の友だち関係の悩みが出てくることがある。</p> <p>◇生徒には、学校でのつながりとネット上でのつながりがある。ネット上のつながりは、見ようと思ってもなかなか見えない。子どもが話してくれる環境づくりが必要だろう。わかっているようで、保護者もわかっていないことが多い。いずれにしても、きめ細かく見ていく必要がある。学校の説明を聞いて、先生が分担してきめ細かく対応していると思った。</p> <p>◇生徒は元気に明るくしているように見えても、悩みがないことはないだろう。これまでどおり、早く気づいて手助けできるようにしてほしい。</p>	

訪問学校・園名	国府保育園	
日 時	平成26年7月17日(水) 13:15 ～ 14:45	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:15～13:45
	職員との懇談	13:45～14:45
	閉会	14:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、園長補佐、各担当職員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践について園長・担当職員から説明】</p> <p>①保育課程・保育目標等について</p> <p>②保育研究について…テーマ「楽しく体を動かす遊びの工夫」</p> <p>③日課について</p> <p>④今年度から、月1回心理士の巡回相談…気になる子について相談</p> <p>【懇談】</p> <p>◇ 保育園出身の子は小さい子の面倒をよく見る傾向があるが、子どもたちが全体で一緒にいる時間はあるか？</p> <p>→ ふれあい交流会など行事には一緒に参加。あえて、一緒に時間の設定はしていないが合同保育の時間などでふれあっている。</p> <p>→ 子どもたちの発案で、2歳児のお昼寝の手伝いに当番で行っている。</p> <p>◇ 当番活動はほかにどんなことをしているか？</p> <p>→ 年中・年長組では献立を伝える・出欠の報告・朝と帰りの会のあいさつなど</p> <p>◇ 区切りごとにけじめをつける習慣はよい。小さいなりにも皆で話し合っていく経験もよい。はだし保育は健康面でもよいが、足の裏の感触は感性も育てる。幼児期に意識してやってほしい。</p> <p>◇ はだし保育は年長児もずっと続けているのか？</p> <p>→ 小学校で上履きのはけない子になってしまわないよう、2月頃より上履きを履く練習をする。</p> <p>◇ 上履き以外に就学がスムーズにいくように就学前にしていることはあるか？</p> <p>→ 給食を20分で区切りをつけて食べ終わるようにするなど、時計を見て行動する習慣づけや話を聞く態度を身につけることなどを指導している。</p> <p>◇ 先生方の言葉遣いが丁寧だと感じた</p> <p>◇ 日案や週の指導計画は保護者に知らせているか？</p> <p>→ 月の計画は掲示している。その日の予定は各クラスのホワイトボードで毎日伝えている。月の保育のねらいは園便りに載せている。</p> <p>◇ 「CSP」とはなにか？</p> <p>→ コモンセンスペアレンツのこと。アメリカで開発された虐待防止プログラムを日本版にしたもの。叱らずほめて伸ばすような子どもへのかかわり方を学ぶ。</p> <p>○ (保育士から) 去年は1歳児の部屋が暑かったが、クーラーをつけてもらったので、お昼寝も食事も快適で食欲が落ちない。</p> <p>◇ 熱中症の対策はどのようにしているか？</p> <p>→ 水分を取るように、意識的に声掛けをしている。冷房をうまく使っていく。</p> <p>◇ 学ばせるより、まず体力。保護者も体力づくりに期待している。</p> <p>◇ しっかり甘えさせてもらった子、信頼関係のある子ほど自主性も育つ。ここで愛情を持って育てていただくことが大切だと思う。</p> <p>◇ はだし保育では小さいけがもするが、小さいけがをする子は大きなけがはしにくい。</p>	

訪問学校・園名	たかとり幼稚園	
日 時	平成26年9月25日(木) 13:15～15:30	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20～14:00
	職員との懇談	14:20～15:30
	閉会	15:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	教頭、全教員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践について説明】</p> <p>平成26年度文部科学省委託幼稚園教育理解推進事業 幼稚園教育課程等神奈川県協議会においてたかとり幼稚園が提案を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「自ら考えようとする気持ちが育つための環境の構成と教師の関わり」 ・今年度の1回目の提案に向け、短期間のなか、皆でチームワークを発揮して研究を進めた。 ・1月に最終発表があり、それに向けて2学期も取り組んでいく。 ・元国府小校長の吉田豊香先生に指導助言をしていただいた。 ・研究に不慣れで大変だったが、日ごろの保育を研究目線で見直す好機となった。 <p>【懇談】</p> <p>◇ 日常の保育以外に研究のまとめの時間をとるのは大変だったのではないかな。 → 家に持ち帰ったりするなど、時間を作り出すことが大変だった。だが、それを乗り越えると必ずプラスになる時が来る。</p> <p>◇ 成果を他の園と共有し合える場はないのか。 → 町内でそういう機会を作るようにしていきたい。</p> <p>◇ 自分の子のときと今の園児は幼さが違うように思う。先生方の疲れはどうか。 → 年々、体の疲れは取れにくくなっていると感じる。行事の準備など、日常＋αのときや持ち帰り仕事のある時など疲れがたまると感じる。そういう時は自分に余裕がないと感じる。健康第一を心掛けている。</p> <p>◇ 年少クラスに支援員の配置が多いようだがどうしてか。 → 年少は人数が多いことに加え、気持ちのままに動く子や甘え方が足りず満たされない子が多い。</p> <p>◇ 気持ちのおもむくままに動く、まわりを気にしない子が多いように思った。たかとりの子は自由奔放。地域性か。家庭でも自由なのだろうか。 → 学校入学前になると座って話が聞けるようになるが、それまでは目をかけ手をかけている。</p> <p>◇ 園で栽培したトウモロコシを干してあり、ポップコーンにすると聞いたがカセットコンロでつくめるのか。 → お味噌汁作り、カレーパーティーなどカセットコンロはよく使用する。</p> <p>◇ 教室の仕切りの効果はあるか。 → ないよりはあったほうがいい。園舎ができた当時は落ち着かない環境だったため、目隠しやドアのかぎ、カーテンなどをつけてだんだんと環境を整備してきた。音の反響がすごくあり、自由に歌が歌えない。ピアノの音も隣のクラスに気を遣う。</p> <p>◇ 物置が死角になりそうだった。 → 裏側もフェンスなどつけて対策をしている。</p> <p>◇ 水はけは改善されたか。 → 工事を何回かしていただいてよくなっている。</p> <p>◇ 本が古いものが多い 改善できたらよい。</p> <p>◇ 支援が必要な子は年長にはいないか。支援については親からの申し出もあるのか。 → いけないわけではないが、成長してきた。保護者からの希望もあるがこちらからお願いする事も多い。</p> <p>◇ 来年から新しい制度が入ってくる。現場としてどのように取り組んでいこうと思っているか。 → 制度が変わるから、ということではないが、保護者へ園の取り組みをアピールできるチャンスが少ないと思う。クラスだよりや職員室だよりなどでできるだけ伝える努力をしていきたい。</p>	

訪問学校・園名	大磯町立国府小・中学校生沢分校	
日 時	平成26年10月16日(木) 13:30～15:45	
日 程	開会	13:30
	授業参観	13:35～14:20
	職員との懇談	14:45～15:45
	閉会	15:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、国府小・中学校生沢分校全職員	
懇談会の主な内容	<p>【学園・分校の概要説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は少ないが転出入が多く、学校として不安定な中、教員はがんばっている。 ・中学部の2・3年は、学校裁量でそれぞれ2クラスに分けて学習している。 <p>【全体懇談】</p> <p>◇ 入学式に参加して以来の訪問であった。先生の苦勞が多いと感じている。カウンセラーの配置など、生徒の相談体制はどのようなになっているか。</p> <p>→ 学園に2名の非常勤の心理担当がおり、定期的に面接を行っている。そのほかに、県教委からスクールカウンセラーが週に1日配置されているが、学園の心理担当に兼ねてもらっている。</p> <p>◇ 相談内容はどのようなものか。</p> <p>→ 定期的なカウンセリングが基本で、プログラムに基づいて実施される。ゲームをしたりしながら、現状の聴き取りを行っている。児童相談所の心理担当が対応することもある。</p> <p>◇ 大変な子どもたちと聞いているが、先生と心が通っていると思った。目が合う子どもがいて、成長していると感じた。</p> <p>→ 分校に来て1年目だが、最初は「さん」付けで呼んでいた。生徒は身構えて、距離感を感じたため、寮の職員と同じようにしてみた。いろいろな場面でかわりを持つことで、心を開いてくれる。いろいろなアプローチ、いろいろなコミュニケーションが必要である。</p> <p>◇ 先生の言葉遣いを聞いていると、接している子どもの様子が分かる。心を通わすことのできる言葉を選んでいるのだろうと想像する。</p> <p>◇ 小学校は在籍が1名で、横に先生が1人座っていた。意図はあるか。</p> <p>→ 前に立つ教師と児童が1対1の関係だと、子どもの負担が大きくなる。プレッシャーを和らげるため、もう一人の教師が児童側に座っている。</p> <p>◇ 理科の授業で、先生がナイフを使用していたが、使用するたびに終わったらポケットにしまっていた。</p> <p>→ 生徒の前でナイフを使わずに、切っておくのがベストだったかもしれないが、切っているのをあえて見せたかった。ナイフをテーブルに置いておくのは問題があると思っていた。</p> <p>◇ 危機管理ができていると感じた。</p> <p>◇ 英語の授業で音楽を流していた。漢字指導が丁寧に行われていた。</p> <p>→ これまでの学校でも同じようにしていた。雰囲気づくりのためである。</p> <p>→ 漢字検定に取り組んでいる。国語の時間の始めは、毎回10分の漢字学習を行っている。</p> <p>◇ 子どもたちはどんなことを悩んでいるのだろうか。</p> <p>→ 家のことについては、思いが強い。養父とうまくいかなかった生徒は、「自分はいい家庭をつくる」と言う。進路をなかなか決められない生徒がいる。帰る家が決まっていなかったから、学校も決められない。生徒は本音をぶつけてくる。きれいごとではすまされない。本音のぶつかり合いで、心を少しずつ開いてくる。なかなか教師の思い通りにはならない。人が来るといいところを見せようとする。運動会も、今日もそうだった。分校が開校した頃は、授業が成立しなかった。当時は非行が大きな問題だったが、今は発達障害が問題となってきている。</p> <p>◇ 家族宿泊棟の「いちよう寮」の利用率はどのくらいか。</p> <p>→ 月に1～2回程度である。</p> <p>◇ いろいろな意味で見ごたえのある授業参観だった。生徒との人間関係づくりをしながら授業が進められていた。子どもたちからの発信を先生が受けて、返している関係が良かった。</p> <p>◇ 外部からの訪問者がある日で、子どもたちが良かったという話があった。意識して行動することができるとのことである。「いい子ぶっている」という友からの見方があるかもしれない中で、それを気にしないで良さを出そうとする子どもの成長を感じる。今後も、外の人と出会う機会の設定をお願いしたい。</p>	

訪問学校・園名	国府小学校	
日 時	平成26年11月20日(木) 12:30 ~ 16:30	
日 程	給食試食	12:30~13:00
	開会・懇談①	13:10~13:40
	授業参観	13:45~14:30
	懇談②(グループ別)	15:00~16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、全教職員	
懇談会の主な内容	<p>【懇談①】</p> <p>○ 学校長及び担当より学校の教育計画について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育計画 かながわ学びづくり推進地域研究委託事業への取組、人権教育・いじめ防止委員会の設置、地域の教育力を積極的に活用した教育活動の推進等について ・ 年間行事予定、曜日別学年時間数、日課表について(クラブ活動を1回60分で実施) ・ いじめ防止基本方針、友達関係アンケートについて ・ 支援教育に関する具体的な取組み状況について ・ 学校研究「豊かな表現力を持つ子どもの育成」について <p>【懇談②(グループ別懇談)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンスペースについては、クラスの枠をはずした学習活動の実施や学年集会の開催など、学年ごとに工夫をした教育活動が展開できるメリットがある。他のクラスの様子が分かる、子どもたちが交流しやすいといった良さもある。一方で、全体としてはオープンスペースに慣れている子どもたちではあるが、刺激に弱い子どもにとっては、スペースを通る人が気になったり、聞こえてくる音が気になったりすることで、落ち着きにくい環境である。また、スペースが遊び場になって走る子どもがいることや、廊下と教室の区別が無いいため授業と休み時間の切り替えが難しい、掲示スペースが少ないというデメリットもある。 ・ 今ある環境を工夫して有効活用していくと同時に、教室とオープンスペースを壁で仕切れる設備があると良い。オープンスペースの活用の仕方を、学校として研究するのも良いだろう。 ・ カーペットは掃除がしにくく、ほこりやアレルギーなど衛生面での問題があり、改善したい。 ・ 正規採用の給食調理員が少なくなっており、今後、調理員の確保について配慮をお願いしたい。(事務局回答:良い方向に進むように調整をしていく。) ・ 支援を必要とする児童が増えている。保護者ボランティアも活用しているが、教育支援員の増員をお願いしたい。 ・ 不審者対応や子どもの病気、けがへの対応として、困ったときに職員室に応援を呼べるように、インターホンがほしい。 ・ 芸術鑑賞教室の予算が無くなり、本年度は完全なボランティアで演奏をしてもらった。今後どのようにしていくのか考える必要がある。 	

訪問学校・園名	大磯小学校	
日 時	平成27年1月16日(金) 12:20 ～ 16:50	
日 程	給食試食	12:20～13:00
	開会・挨拶・教育活動の概要説明Ⅰ	13:05～13:35
	授業参観1(モジュール)	13:35～13:50
	授業参観2(5校時)	13:55～14:40
	教育活動の概要説明Ⅱ	15:05～15:30
	職員との懇談	15:40～16:40
	閉会	16:40
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教職員	
懇談会の主な内容	<p>【担当者から教育活動の概要説明Ⅰ】</p> <p>① 学校の教育活動について概要説明</p> <p>② モジュール授業について</p> <p>・ 毎週1回、水曜日にモジュールの時間を採用しており、隔週で英語とロングの休み時間として活用している。</p> <p>③ アンケート調査の実施結果について</p> <p>【担当者から教育活動の概要説明Ⅱ】</p> <p>④ 教育相談活動について ⑤ 学校保健について</p> <p>【懇談】</p> <p>◇ 児童アンケートでは、外遊びをあまりしていない様子が窺えた。</p> <p>→ 運動場が狭いので、ボール遊びができる学年が学校のルールで決められている。ボールを使えるときは、ドッジボール、使えないときは岩石園で鬼ごっこをしている。寒い時期は特に、できるだけ外へ出るように声かけをしている。</p> <p>→ 外遊びについて否定的な回答をしているのは、6年生に多いと思う。運動会の鼓笛練習、音楽会、総合的な学習、版画、卒業文集等、自分の判断で休み時間にも作業をしている子どもも多い。3学期には、週に1回はクラスのみんなで遊ぶ約束をしているところである。</p> <p>◇ 教員の負担も大きいと思うが、体力テストの結果を見ると、なんとかしないといけないと思っている。</p> <p>→ 体力向上については、学級・学年で工夫している。児童体育委員会で、全校の取組みも行っている。</p> <p>→ 5・6年生では、昨年度に引き続きマラソン大会を開催する。この計画に向けた練習で運動量が多くなることを期待している。</p> <p>→ 休み時間も忙しいが、できるだけ外に出て一緒に遊ぶようにしている。</p> <p>◇ 学校がそこまでしなければならないのかという疑問もあるが、教職員アンケート「本校では、子どもたちの体力増進に取り組んでいる。」については、一人ひとりに何ができるか考えてほしい。遊びながら体力向上ができるコーディネーショントレーニング、自分が子どものときに学校として取り組んでいた一万点運動などは参考になると思う。</p> <p>◇ 保護者からの相談は、どんな内容が多いか。</p> <p>→ 年度始めには新しい環境への不安、年度末には新しいクラスや学年への不安が多い。また、子どもの発達の問題に関する相談も多い。</p> <p>◇ 体力づくりのための活動よりも、運動好きに育てる活動により、体力はついてくる。体育の時間に運動好きな子どもを育てたい。グラウンドは、来年度中に改修できるように考えている。</p> <p>◇ 授業参観の内容を見るとメリハリがあったと思う。系統に沿った学習と児童の自主性を重んじた学習が使い分けられていた。今後も、授業づくりを工夫していただきたい。</p> <p>◇ 騒音や落ち葉の問題などについて学校には近隣から様々な声が届くことと思う。学校も近所付き合いが必要な時代である。</p> <p>◇ 遅い時間まで学校の電気がついていて、勤務時間があるようでない状況になっている。効率化できるものは効率化し、教員のメンタルの健康にも気をつけてほしい。</p> <p>◇ 小学校における英語教育の充実を文部科学省は実施しようとしている。率直な意見を聴かせていただきたい。</p> <p>→ 時代の流れを感じる。そのようになっていくのだろうと思う。</p> <p>→ 大磯小学校では、AETに加えて英語を主に担当する教員がいるため、学級担任は3番目の教師として授業に入っている。その環境があれば良いが、もし自分が授業を進めるとしたら、正直なところ不安である。</p>	

訪問学校・園名	国府幼稚園	
日 時	平成27年2月19日(木) 9:15 ~ 10:40	
日 程	開会	9:15
	職員との懇談①	9:15~9:30
	保育参観	9:30~10:10
	職員との懇談②	10:10~10:40
	閉会	10:40
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>【大磯幼稚園の保育実践について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの育ちに合った援助を行っている。頻繁にケース会議を開いて実践共有を行ったり、子育て支援総合センターと協力して心理士の巡回訪問相談を実施したりしている。 ・生活の中で役立つ動きに注目しながら体力向上について取り組んでいる。今年度は体操教室やラグビー教室を実施した。 ・担任より各クラスの様子について説明。 <p>【懇談】</p> <p>◇ 支援が必要な子は多いか。またその対応は。</p> <p>→ 学年スタート時から支援が必要な子はいる。教育支援員と協力しながら対応できている。</p> <p>◇ 幼稚園にとっての体験活動の意義は。</p> <p>→ 多感で何でも吸収する意欲に溢れている園児にとって、実際の体験は大切である。ただし、たった1回の活動で終わらせることなく、日常の保育に活用できるような体験活動を心がけている。</p> <p>→ 体験活動を通じて見えた、小さなことだが具体的な子どものエピソードを保護者と共有することで、信頼関係(繋がり)を構築することができる。</p> <p>◇ この時期は年長児だと小学校進学を意識するが、保護者や子どもの様子はどうか。</p> <p>→ (上に兄や姉がいない)初めて小学校に行く子や保護者の中には不安を感じている様子も見られる。園として、国府小学校と密に連携(小学校への園児訪問など)していることを丁寧に伝えている。不安面だけでなく、楽しみなこと(友達が増える、給食がおいしいなど)も伝えている。</p> <p>・60周年記念イベントはとても良かった。公立・私立問わず、町内の他園の様子を見ることができて、子ども達だけでなく職員にとっても刺激になる。保護者からも毎年続けてほしいとの声があがっていた。</p>	

②行事等

行事名	月日(曜)	対象園・学校
運動会・体育祭	6月8日(日)	大磯中学校
	6月8日(日)	国府中学校
	9月20日(土)	大磯・たかとり幼稚園
	9月26日(金)	国府小・中学校生沢分校
	9月27日(土)	国府保育園・国府幼稚園
	10月11日(土)	大磯・国府小学校
文化祭・保育発表会等	10月18日(土)	大磯中学校文化祭
	10月18日(土) ～19日(日)	国府中学校文化祭
	10月18日(土)	いそっこフェスティバル(幼・保ふれあい交流会)
	11月23日(日)	おいそ学園(生沢分校)収穫祭
	12月6日(土)	国府保育園お楽しみ会
	12月12日(金)	大磯・たかとり幼稚園保育発表会
	12月11日(木)	国府幼稚園保育発表会
卒業証書授与式 ・修了証書授与式	3月16日(月)	国府小・中学校生沢分校
	3月13日(金)	大磯・国府中学校
	3月18日(水)	国府幼稚園
	3月17日(火)	大磯・たかとり幼稚園
	3月20日(金)	大磯・国府小学校
	3月21日(土)	国府保育園
生涯学習	4月27日(日) ～6月15日	企画展「収蔵動物標本展」
	7月12日(土) ～9月23日(火)	企画展「相模湾のウミガメ」
	7月29日(火) ～30日(水)	合併60周年企画「コンピュータで未来の大磯を描いてみよう」
	10月11日(土) ～12月7日	合併60周年企画「大磯の景観再発見プロジェクト」、「地図と風景写真から見る大磯」
	10月18日(土) ～19日(日)	おいそ文化祭
	11月16日(日)	大磯図書館まつり
	1月6日(火) ～2月28日	企画展「大磯町の文化財」
	1月12日(月)	成人式・新成人記念のつどい
	3月21日(土) ～5月10日	企画展「昭和の子どもたち」
	3月29日(日)	大磯Challenge Live
その他行事等	11月1日(土)	小・中学校音楽会
	11月8日(土) ～9日(日)	子ども作品展
	1月24日(土)	中学生英文朗読大会
参加体制	教育委員・事務局職員	

(5)その他の活動

①神奈川県市町村教育委員会連合会総会・意見交換会

日時	平成26年4月9日(水)
場所	横須賀市役所 301会議室
参加体制	教育委員長、事務局随行
内容	<p>10:45～11:15 【総会】</p> <p>1) 平成25年度事業報告及び収支決算</p> <p>2) 役員改選</p> <p>3) 平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)</p> <p>4) その他</p> <p>11:30～12:30 【意見交換会】</p> <p>・認定子ども園 ・教育委員会制度 など</p>

②関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会

日時	平成26年5月16日(金)
場所	ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)
参加体制	教育委員2名、事務局随行
内容	<p>13:00～13:25 開会式</p> <p>13:30～14:00 【総会】</p> <p>1) 平成25年度事業報告・会計決算</p> <p>2) 平成26年度事業計画(案)・会計予算(案)</p> <p>3) 会長、副会長及び監事の選出・理事の選任</p> <p>14:05～16:05 【研修会】</p> <p>1) 講話</p> <p>・「教育委員会制度改革について」</p> <p>・講師: 全国市町村教育委員会連合会事務局長 相上 興信 氏</p> <p>2) 記念講演</p> <p>・演題: 「自ら学ぶ力」を育む～「教わる」から「学ぶ」への転換</p> <p>・講師: 東京大学名誉教授 信濃教育会教育研究所長 佐伯 胖 氏</p> <p>16:10～16:20 閉会式</p>

③神奈川県市町村教育委員会連合会役員会

日時	平成26年8月13日(水)
場所	鎌倉市役所第3分庁舎 講堂
参加体制	教育委員長、事務局随行
内容	<p>14:00～14:40</p> <p>1) 平成26年度神奈川県市町村教育委員会連合会研修会について</p> <p>2) 平成27年度神奈川県市町村教育委員会連合会負担金について</p> <p>3) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴う本協議会のあり方</p>

④神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

日時	平成26年10月31日(金)
場所	鎌倉生涯学習センター ホール
参加体制	教育委員4名、事務局随行
内容	<p>13:45～14:00 開会・挨拶</p> <p>14:00～15:30 【講演会】</p> <p>講演①「一寸先は光」</p> <p>(円覚寺 横田 南嶺 管長)</p> <p>講演②「教育委員会制度改革について」</p> <p>(文部科学省初等中等教育局 堀野 昌三 企画官)</p> <p>15:30～15:45 質疑応答</p> <p>15:45～16:00 閉会・事務連絡</p>

(1)教育委員会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大磯町教育委員会規則」に則り、大磯町の教育行政が円滑に運営されるために必要な事項を協議する。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①教育委員会議が、法令等に沿って、その開催にあたり会議の予定、議案を周知し、議事内容を公開するなど、適切に実施されたか	A	法令に則り、年度初めに計画された定例会は公開により開催され、臨時会も必要に応じて適宜開催された。開催にあたり会議の予定を町広報誌やホームページを通じて周知し、議事録も公開した。	教育委員会議は予定や議事内容の公開に努め、関係者のみならず、地域住民とも問題点の共有と理解を今後も図らなくてはならない。
②教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているか	A	教育委員会制度改革や子ども子育て新制度に向けての議案等、多くの発議があったが、複雑な案件は事前の勉強会で理解を深めた後に審議するなど、十分な意思決定の時間を設け慎重に審議された。また、協議事項の議論においては、方向性を示すとともに適切な意思決定がなされた。	多岐にわたる案件を審議するにあたり、事務局から適切な資料を提供するとともに、委員自身も積極的な情報収集に努め、資質の向上に努めたい。 委員の間で見解が異なる事柄があった場合も、可能な限り全員が納得するまで協議をしたい。
③教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか	A	子ども子育ての現状や将来を鑑み、待機児童対策や子育て環境の充実に対応するとともに、いじめ防止基本方針の策定や中学校給食の実施に向けた準備を進めた。また、教育委員会制度改革や教科用図書採択地区についても議論された。	子ども子育て新制度の内容について丁寧な周知が急務である。また、いじめ・体罰の防止と早期発見、児童生徒の体力向上等は学校と家庭が連携し、解決への十分な努力をする必要がある。
④教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか	A	会議は自由に傍聴できることから、議案によって関係者や地域住民が訪れている。また、地域フォーラムや地区懇談会等に参加し、地域住民から収集した要望や課題を教育行政にフィードバックすることに努めた。	議案が会議開催前に周知され、議事録が公開されているため、傍聴者が少ない状況であるが、会場を町内に分散する等、これまでの工夫を継続したい。 地域住民や保護者と十分な心を通わせ、多くの課題に対処できるよう努めるべきである。
⑤教育委員会議は、地域住民・学校との交流・懇談の中から得られた課題を議題として適切に対応したか	A	各学校・園への訪問や地域住民との懇談会で提起された要望や課題は、可能な限り会議において議論し、対応に努めたが、人や物については予算を始めとする他機関との調整もあり、一つ一つの解決を目指す努力をしているところである。	交流や懇談から得た課題の解決や要望の実現は、すべてに対応するのは困難であるが、施設改修などは時間を要しても実現に努力したい。 優先すべき課題が多くなる中で、さらに緊急性や重要性を見極め、順次対応していく必要がある。多くの場合、予算面での課題があるが、今後も粘り強く対応していくことが大切である。
総合評価	A	教育委員会の職務権限に属する案件について、教育委員会議で付議・協議・報告は適切に行われ、様々な角度から議論、検討することにより、正しい審議を行い、教育行政の円滑な運営につなげることができた。 また、地域住民や学校との交流から課題を見出したり、教育行政の今日的な諸問題に目を向け、多角的な視野をもって適正な意思決定機関となるように努めたい。 さらに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正後も、中立公正な意思決定機関であることを周知するためにも、より開かれた会議を目指していきたい。	

(2) 事務連絡調整会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 教育委員会会議を円滑に運営するため、事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認等を行う。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①必要に応じて、適宜、開催されたか	A	13回開催された会議では、いじめ・体罰問題、中学校給食導入、教科用図書の採択、生徒指導上の諸課題、生涯学習推進計画、子ども子育て新制度等の教育委員会が関わる様々な案件について事前の情報提供や結果報告が行われ、教育委員会会議の確認や調整の機会として、また緊急の問題を議論する場として有効に開催された。	課題解決に向けて勉強し議論する場として、回数や項目に拘らず柔軟な開催を考えたい。 成績評価や事故被害といった重要な案件は、情報収集が十分とは言えず、課題解決に向けて議論を重ねる場としていきたい。
②勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか	A	子ども子育て新制度、教育委員会制度改革、予算、教科用図書採択、中学校給食等、複雑な案件では早い段階から資料が提供され、その上に最新の情報を積み重ねることで有効な議論ができた。	教育行政の成果はすぐに現れるものではないため、将来を見据えた教育を念頭に置き、様々な課題を得るよう努めたい。 また、自分でも情報収集をするように努めていきたい。
③次回の議案、テーマに関して一定の理解がなされたか	A	教育委員会会議の付議・協議事項について事前に情報提供を受け、問題点や論点を理解することができた。	多くの項目を議論する必要がある、迅速な情報提供と丁寧な説明が求められる。特に複雑な案件は勉強会を設けるなど、教育委員会会議の適正な意思決定へ繋がる会議としたい。
総合評価	A	子ども子育て新制度、教育委員会制度改革、いじめ防止基本方針、教科用図書採択地区、旧吉田茂邸再建等、複雑な案件は共通理解を得るために何度も議論された。また、学校現場の案件は情報提供と報告が丁寧に行われ、解決に向けた議論が実現している。 教育委員会会議を円滑に効果的に運営するため、情報の共有などの役割は十分に果たしていると言えるが、多様化している諸課題については、未解決の課題を残すことなく、解決に向けて早急に努力すべきである。 状況の変化に柔軟に対応できるように話し合いの機会が増えたら良いと思う。 見える化という視点で、話し合われた内容を、可能なものは公開することに努める。	

(3) 意見交換会・懇談会

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 保護者や地域の方々と直接対話することにより、子どもを取り巻く様々な課題を共有し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①適切な時期に必要回数実施されたか	C	各学校の地区懇談会開催時期は、8月から9月に集中していることから、日程的に考慮が必要であるが、恒例とすることで参加者が調整しやすくなるとも考えられる。保護者と直接対話する貴重な機会である町立学校PTA役員との懇談会が未実施となってしまった。	年間を通じて自由に活発な意見交換が行われる機会をもっと設ける必要がある。PTA役員との懇談会は、開催に向けて準備を進める必要がある。 子育て中の保護者や子育てを経験した世代とも今日的な課題について議論する機会を持つべきである。

②参加した懇談会等で必要な課題が適切に話し合われたか	A	児童生徒を取り巻く問題として、スマホやインターネットのトラブル、防災・防犯は今日の課題と言える。多くの本音が語られ、それぞれの地域住民からのアドバイスもなされ、有意義な話し合いとなった。	社会的に取り上げられているトラブルや防災・防犯のテーマとともに、学校や地域における児童生徒の様子も話題としたい。一方通行にならないように、コーディネーターを置くなど、運営方法の工夫を働かかけたい。
③懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	保護者や地域の方々の思いが伝わってくる意見交換ができたが、実現の難しいものもあり、予算の優先順位など多くの課題が残されている。 通学路の安全や不審者情報の扱い等、児童生徒の安全安心に関わる情報は内容を確認し、必要に応じて改善に繋げるよう努力した。	様々な立場の方が出席される懇談会では、一つのテーマから見方を変えた情報や意見を得ることができることから、教育委員目線では気付き難しい情報も生かすよう努めたい。
④懇談会等により、教育委員会が住民にとって身近なものとなっているか	B	小中学校の地区懇談会は地区住民と直接、意見交換ができる身近なものとなっているが、町立学校PTA役員との懇談会が未実施であったことは交流の好機を失うこととなった。 教育委員会が保護者や住民にとって身近な存在になっているかという点については十分な答えが出ない。	問題解決のためには、PTAや地域住民と対話し、信頼関係を構築していくことが重要であり、今後、懇談会などを通じて努力していくべきで、実施調整と委員の積極的な参加を促したい。
総合評価	B	PTA連絡協議会や地域住民との懇談会は、複雑多岐にわたる意見の収集があり、初めて教育行政に何らかの役割を果たすことができるし、またその蓄積がいつか大きな財産となることと確信している。今後とも、教育行政に対し、保護者や地域住民の皆様からそれぞれの立場でお力をお借りできるようにしていきたい。 意見交換会や懇談会は問題を共有すると同時に、相互の信頼を深める場となっており、意見を教育行政に生かす貴重な機会であることから、未実施の活動について改善が必要である。 知恵を出し合い「どうしたらできるか」と考えることも必要であり、意識を変える努力をしたい。	

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園現場を訪れることにより、現場が抱えている課題を把握し、教職員との懇談を通し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか	A	それぞれの学校や園の訪問により、教職員と教育委員会が意見交換をし、多くの課題を共有することができた。教員が園児・児童・生徒を思う気持ちや教育的な指導の状況、特別なケアの必要な生徒への対応等、現場の苦労やその姿勢を理解でき、有意義な会であったと言える。	課題共有の貴重な機会として、一部で実施しているグループ懇談を取り入れるなど、園や学校から問題提起しやすい環境づくりに心がけたい。また、訪問先の状況を予習する等、限られた訪問時間の有効活用に努めたい。
②学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	A	現場の先生方の「生の声」は「宝」である。愛情を持った先生方の姿が浮き彫りとなり、教育の実践の状況が実に見事となって町の子どもたちの将来を支えていると感じた。 教育活動や保育実践を理解し、視察して得た情報は教育委員会の意思決定の要素となっている。 出てきた意見や要望の対処には、現場の理解が得られていると感じた。	施設の改善等、予算を要する課題は時間のかかる対応となりがちであるが、今後も現場の意見を受け止めた対応に心がけたい。 訪問に際しての要望等に対しては、何らかのフィードバックができるようにしたい。 例えば具体的には、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業については、国の方針に従いつつも、町の地域性を生かし残すことで、関係各位の理解を求めることが考えられる。

総合評価	A	<p>訪問は授業を参観し、懇談会へ繋がる流れの中で、教育現場が抱える課題を把握し易くなるよう構成している。また訪問後、課題の中から必要に応じたサポートや予算化に向けた対応が検討されている。</p> <p>現場が抱える喫緊な課題についての共通認識を得ることができたが、不安を残したまま解決できていない課題もある。</p> <p>教職員が意見を言いやすい雰囲気づくりにも配慮していきたい。</p>
------	---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 訪問(行事等)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

<p>【目的】</p> <p>学校・幼稚園・保育園行事や教育委員会主催行事への参加をととして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深める。</p>			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか	A	<p>様々な行事に対して真剣に取り組む園児・児童・生徒の姿を見ることは、教育委員を始め参加者全員の喜びであり、子どもたちの成長を共有し、交流が深まったと言える。</p> <p>見学だけの行事もあるので、本質的なものは想像力をもって知ることになる。行事の性格に応じて、交流や意見交換ができた。</p>	<p>教育委員と児童生徒・保護者・地域住民が交流できる機会として積極的に参加し、子どもたちの成長を共感しながら、意見交換へ繋がるよう努力したい。</p> <p>前年度に訪問したときの資料を共有してからの訪問とし、生徒や保護者との交流にも期待する。</p>
②各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか	A	<p>それぞれの園や学校が教育目標に則り、特色ある行事に取り組みながら児童生徒の成長を支えていることが理解できる。また、文化祭や企画展を通して、地域の様子や活動を理解する機会となっている。</p> <p>多くの住民や保護者の参加と共感を得て、気がつけば「町おこし」を十分体験していた。</p>	<p>学校訪問や地域懇談会と異なる角度から園や学校や地域と接する機会として、積極的な参加を継続したい。</p>
総合評価	A	<p>各行事は児童生徒や関係者の努力の成果を披露する場であり、それまでの様々な取り組みについて理解を深め、意見交換する好機となっている。堅苦しくない雰囲気の中、子どもたちや地域住民と言葉を交わすことができた。</p> <p>大磯町という特性を生かし、園や学校の行事を家族や地域の幅広い年齢層を始め、多くの住民の参加を得て、町一体となった様子からしても、全国にも負けない「町おこし」を果たしていると言える。教育も「町おこし」の一翼を担っている。</p>	

4 学識経験者による評価（外部評価）

【外部評価者】（敬称略、項目ごとの記述記載順：欄中○印）

氏 名	所 属 等	備 考
清 田 義 弘	元教育委員	
武 沢 護	早稲田大学大学院教職研究科客員教授	

【外部評価の概要】

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する上記の方々のご意見をお聞きする機会を設け、次の2点について、外部評価をお願いしました。

- ① 内部評価での評価項目や評価そのものが適正・適切であるか**（内部評価の妥当性）**
- ② 内部評価での評価項目や評価そのものが妥当性に欠ける場合や更によりよい評価活動を目指すための指針**（指導・助言）**

なお、各項目の記述については、外部評価者ごとに（○印）、順に記載しました。

（1）教育委員会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会議が適切に開催され、それぞれの案件について真摯に協議し、各委員が目的に沿って前向きに取り組んだことに敬意を払いたい。</p> <p>①の教育委員会議の予定周知は広報・ホームページ等に掲載され、会議は公開により開催され「A」評価は妥当である。</p> <p>②の「教育委員会議が、適正な意志決定機関になっているか」は、複雑な案件は事前の勉強会で理解を深めた後に審議し、十分な意思決定の時間を設けて慎重に審議するなど「A」評価は妥当である。</p> <p>③の「教育行政における今日的な課題に対応しているか」は、待機児童対策や子育て環境の充実に対応するとともに、いじめ防止基本方針の策定や中学校給食の実施に向けた準備等十分議論され、「A」評価は妥当である。</p> <p>④の「教育委員会議が、地域住民にとって身近なものになっているか」は、自由に傍聴できることから、議案によって関係者や地域住民が訪れている。また、地域フォーラムや地区懇談会等に参加し、地域住民から収集した要望や課題を教育行政にフィードバックすることに努め、「A」評価は妥当である。</p>	<p>○本年度は小学校の教科用図書採択があり、例年以上に大変だったと思われる。また、今後も、多岐にわたる案件を審議するにあたり、事務局から適切な資料を提供することが大事であり、委員自身も積極的な情報収集に努め、判断する材料を得るよう努め、適切な審議をしていたきたい。</p> <p>いじめ・体罰の防止と早期発見、児童生徒の体力向上等は学校と家庭が連携し、解決への十分な努力をする必要がある。特に、いじめについては、常に起こり得ることを念頭に置き、準備を怠らないようにしてほしい。</p> <p>地域住民や保護者と十分な心を通わせ、多くの課題に対処できるよう努めるためにも、多くの住民に傍聴に訪れてほしいと考える。現在、臨時会は別として、定例会は、役場での開催が多い。西の国府支所で1回ぐらい開いてはどうか。</p> <p>○複雑かつ多様化している今日の教育課題に対して、迅速かつ適切に対応するための教育委員会制度の重要性はますます重要になってくる。課題に対する改善点等にも述べられているように、日常的に教育委員会が学校・園だけでなく</p>

<p>⑤「交流・懇談の中から得られた課題を議題として適切に対応したか」については、訪問や地域住民との懇談会で提起された要望や課題は可能な限り会議において議論し、対応に努めた等「A」評価は妥当である。</p> <p>総合評価については、教育委員会議で付議・協議・報告は適切に行われ、様々な角度から議論、検討することにより、正しい審議を行い、教育行政の円滑な運営につなげることができた等会議録からも伺え、「A」評価は妥当である。</p> <p>○教育委員会議が法令に則り、計画的かつ臨時会など柔軟に対応し、円滑に運営されていることが確認できる。</p> <p>まず項目①については、会議の開催、議事録の公開など広報誌やホームページで行うことは地域住民へ開かれたものになるために非常に重要であり評価「A」は妥当である。</p> <p>項目②については、後述の事務連絡調整会議の役割とも関連するが、今日的な複雑な案件に関しても丁寧な段階を踏んで議論されたことが確認でき評価「A」は妥当である。</p> <p>項目③は教育委員会として非常に重要なものであり、学校関係者だけでなく地域住民にとっても大きな関心事である。平成 26 年度については、待機児童、いじめ防止など重要課題が山積したが、適切に対応しており、この項目の評価が「A」であることも妥当である。</p> <p>項目④である地域住民の意向の反映という点は重要な項目である。会議の傍聴が少ないが、地域フォーラム開催等の努力は認められるため評価「A」は妥当である。</p> <p>項目⑤であるが、地域住民や各学校や園などとの意見交換から出てきた要望や課題は最優先に取り組むべきものであり、またそれは児童生徒にとっても重要である。「可能な限り会議において議論し、対応に努めたが・・・努力しているところである。」という評価の根拠で評価「A」とはなっているが、一層の努力が不可欠である</p>	<p>一般の地域住民にも身近なものであることが重要である。</p> <p>特に項目①に関しては、教育委員会会議に地域住民が参加しやすいような日程の工夫、項目④および項目⑤に関しては、その評価は「A」とはなっているが、従来からの取り組みだけでなく、地域住民の意見を吸い上げやすい新たな仕組みの工夫が必要と考える。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>と感じる。</p> <p>最後に総合評価であるが、今日の複雑かつ多様化している教育課題に対して、迅速、適切かつ円滑に対応するための教育委員会制度の役割はますます重要になってくる。このようななか、また限られた時間のなかにおいて平成26年度の地域・学校・園への取り組む姿勢ならびに実行は適切であり、またその成果も認められる。それゆえ評価「A」は妥当である。</p>	
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(2)事務連絡調整会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会議を円滑にかつ適正な意思決定を行うには、事務連絡調整会議の位置づけは重要である。</p> <p>①「必要に応じて、適宜、開催されたか」については、教育委員会が関わる様々な案件について事前の情報提供や結果報告が行われ、教育委員会議の確認や調整の機会として、また緊急の問題を議論する場として有効に開催され、「A」評価は妥当である。</p> <p>②「勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか」は、子ども子育て新制度等、複雑な案件では早い段階から資料が提供され、その上に最新の情報を積み重ねることで有効な議論ができ、「A」評価は妥当である。</p> <p>③「次回の議案、テーマに関して一定の理解がなされたか」は、教育委員会議の付議・協議事項について事前に情報提供を受け、問題点や論点を理解することができ、「A」評価は妥当である。</p> <p>総合評価については、子ども子育て新制度、教育委員会制度改革、いじめ防止基本方針、教科用図書採択地区、旧吉田茂邸再建等、複雑な案件は共通理解を得るために何度も議論された。また、学校現場の案件は情報提供と報告が丁寧に行われ、解決に向けた議論が実現しており、「A」評価は妥当であろう。</p>	<p>○定例会後の事務調整会議は、次の学校訪問等もあり時間が限られている。その中での話し合い、打合せをし共通理解を図ることは大変であり、敬意を表したい。大変ではあるが、必要によっては、臨時の会を持つなど、教育委員会議が丁寧に慎重な審議がはかれるようご努力いただきたい。</p> <p>本年度は、小学校の教科用図書採択があり、ここには現れていない勉強会が何回か開かれていると推測される。今後も、中学校の教科用図書採択があるが、将来を担う子どもたちのよりよい教育のために慎重に審議していただきたい。</p> <p>○教育委員会の円滑な運営のためには不可欠となっている事務連絡調整会議が有効に機能していることが窺える報告である。さらに教育委員ならびに事務局との連絡調整を密にして更なる機能が働くことを期待するものである。</p> <p>また項目②に関係するが、教育委員の研鑽のため、大磯の教育の未来に関わるような長期的な展望にたった内容の勉強会、研修会なども積極的に実施していただきたい。</p> <p>また、この会議が非公開である妥当性は認められるが、情報公開の立場から開催形態も今後の検討すべき課題として欲しい。</p>

<p>○教育委員会会議の円滑な運営のための事務連絡調整会議の役割を十分に果たしていることが確認できる。解決が難しい案件や重要な案件については慎重な議論が必要である。事務連絡調整会議に関する報告を読む限りでは、非常に有効に機能していると確認できる。</p> <p>項目①では、年間に起こる様々な案件を処理するため13回の開催は時宜にかなったものであり評価「A」は妥当なものである。</p> <p>項目②については、教育現場に関わる新たな課題への対応など、教育委員自身の研鑽が求められることは当然である。子ども子育て制度など各種の新制度への対応や中学校の給食などへの対応について有効な議論がなされた点などから評価「A」は妥当と考える。</p> <p>項目③については、教育委員ならびに事務局との円滑な連絡調整が実施され、項目(1)にあるように教育委員会会議が運営され評価「A」の妥当性はある。</p> <p>総合評価について、平成26年度のさまざまな課題に取り組むなか、教育委員会会議の円滑な運営を第一義にし、情報共有および共通理解を促進する役割が果たせていると判断できる。評価「A」は十分妥当である。</p>	
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(3)意見交換会・懇談会

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○①「適切な時期に必要な回数実施されたか」は、各学校の地区懇談会に参加し多く情報交換ができたと考えられるが、保護者と直接対話する貴重な機会である町立学校 PTA 役員との懇談会が未実施となってしまったとあり、保護者の意見を直接聞く大切な機会を失っていることは残念であり、「C」評価は妥当であろう。</p> <p>②「参加した懇談会等で必要な課題が適切に話し合われたか」は、多くの本音が語られ、それぞれの地域住民からのアドバイスもなされ、有意義な話し合いとなり、「A」評価は妥当である。</p>	<p>○PTA との懇談会は、保護者と直接対話する貴重な機会である。様々な意見が聞ける機会であるので前向きに検討し実施してほしい。</p> <p>地区懇談会においては、役員のみでなく、一般の保護者の参加も多くのぞみたい。子どもを取り巻く現在の状況では、一般の保護者の協力が欠かせない。今後も、広報回覧等の周知に心がけてほしい。</p> <p>今後も、学校・保護者・地域住民の連携を図るべく努力してほしい。</p> <p>○平成27年度は是非、PTA 連絡協議会役員との</p>

<p>③「懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか」は、実現の難しいものもあり、予算の優先順位など多くの課題が残されている。通学路の安全や不審者情報の扱い等、児童生徒の安全安心に関わる情報は内容を確認し、必要に応じて改善に繋げるよう努力したいとあり、「B」評価は妥当であろう。</p> <p>④「懇談会等により、教育委員会が住民にとって身近なものとなっているか」は、小中学校の地区懇談会は地区住民と直接、意見交換ができる身近なものとなっているが、町立学校PTA役員との懇談会が未実施であったことは交流の好機を失うこととなったとあり、「B」評価は妥当であろう。</p> <p>総合評価は、意見交換会や懇談会は問題を共有すると同時に、相互の信頼を深める場となっており、意見を教育行政に生かす貴重な機会であることから、未実施の活動について改善が必要であるとあり、「B」評価は妥当であろう。</p> <p>○教育委員会制度の大きな柱の一つである「地域住民の意向の反映」の意義は、教育が児童生徒の保護者だけでなく、地域住民の関心の高い分野であるからである。このことを考慮すると、地域住民が気軽に参加できる意見交換会や懇談会の実施は非常に重要である。</p> <p>項目①については、国府小学校・中学校および大磯中学校での地域住民・保護者向けの懇談会は持たれたがPTA役員会が未開催ゆえ、評価「C」は致し方ない。</p> <p>項目②については、開催された懇談会において、現在の小学校や中学校における今日的な課題について、活発な意見交換が行われたことは非常に有意義であったと思われ、保護者等の満足度を考えれば評価「A」は妥当である。</p> <p>項目③については、項目①および②にも関係することであるが、政策を実行するに当たっては大磯町全体の施策や財政的な側面を考慮する</p>	<p>懇談会の実施をお願いしたい。そして、教育に関して形式的ではなく実質的な内容になることを期待したい。また、意見交換会や懇談会も、小学校・中学校または大磯地区・国府地区にこだわらず、小中接続または大磯町全体の視点をもって開催してもいいのではないか。</p> <p>いじめ問題、ネット・ケータイ・スマホ問題、防犯・防災問題、交通安全問題など地域と学校が一体となって解決できるような取り組みについて他の自治体に先駆けて提案できるような大磯町の教育行政を期待したい。</p> <p>なお、P.14（3）意見交換会・懇談会における、各事業報告において、参加人数を記入していただきたい。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>と、このことは教育委員会だけで意思決定できるものではなく、自己評価としての「満足」に到達することはなかなか難しいと想像できる。評価「B」でも致し方ない。</p> <p>項目④については、項目①にも関係するがPTA懇談会未実施により低い評価となっている。しかし、実施された地区懇談会や地域ふれあいの集いの内容を見る限り、今日的な課題に対し、非常に活発な議論が行われた様子が見え、ことから評価「B」は妥当である。</p> <p>総合的にみると、開かれた学校、開かれた教育行政を推進していくには、このような地域との意見交換や懇談会の実施は重要であり、さまざまな複雑化する課題解決には不可欠である。しかし、一方で限られた時間のなかで、懇談会等を企画し開催するにはやや限界があるのも事実であることから平成 26 年度の事業としては評価「B」は妥当である。</p>	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○町内全小中学校、幼稚園、保育園への訪問は、大磯町の教育の特徴であり、幼・小・中教育の連携のはかれる強みでもある。</p> <p>①「学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか」は、学校や園の訪問により、教職員と教育委員会が意見交換をし、多くの課題を共有することができた。教員が園児・児童・生徒を思う気持ちや教育的な指導の状況、特別なケアの必要な生徒への対応等、現場の苦労やその姿勢を理解でき、有意義な会であったと言えるであり、「A」評価は妥当である。</p> <p>②「学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか」は、教育活動や保育実践を理解し、視察して得た情報は教育委員会の意思決定の要素となっていることや、出てきた意見や要望の対処には、現場の理解が得られていると</p>	<p>○「課題共有の貴重な機会として、一部で実施しているグループ懇談を取り入れるなど、園や学校から問題提起しやすい環境づくりに心がけたい。」とあるが、教育委員の訪問となると教職員は、構えてしまうことが多い。総合評価にあるように教職員が意見を言いやすい雰囲気づくりが大事である。グループ懇談は、よい工夫であろう。</p> <p>また、「訪問先の状況を予習する等、限られた訪問時間の有効活用に努めたい。」とあるが、大変な中ではあるがご努力いただきたい。</p> <p>施設の改善等、予算を要する課題は時間のかかる対応となりがちであるが、今後も現場の意見を受けとめた対応に心がけたい。「訪問に際しての要望等に対しては、何らかのフィードバックができるようにしたい。」とあるが、予算については、ねばり強く町当局に当たってほしい。</p>

<p>感じたとあり、「A」評価は妥当である。</p> <p>訪問は授業を参観し、懇談会へ繋がる流れの中で、教育現場が抱える課題を把握し易くなるよう構成している。また訪問後、課題の中から必要に応じたサポートや予算化に向けた対応が検討されているとあり、総合評価の「A」評価は妥当である。</p> <p>○教育委員にとって、学校・園への訪問は現実的に起こっているさまざまな問題を認識できる最良の機会であろう。幼稚園・保育園、小学校そして中学校と発達段階による問題や課題の違いはあるが、やはり現場に行ってみるこそ理解が深まるものである。</p> <p>項目①については、限られた時間の中、幼保、小学校、中学校への訪問からその発達段階によるさまざまな課題を学校現場と共有できていることがうかがえる。それぞれ固有の問題、共通な問題と多岐に渡っているが有意義な訪問であったことから評価「A」は妥当である。</p> <p>項目②の評価は「A」ではあるが、項目①の内容を踏まえた上での取り組みと思うが、報告書を見る限り、教育行政への反映についてはやや具体性にかける。これらは財政にも関わる問題であるため、容易に実現できるものではないが、常に改善努力をお願いしたい。</p> <p>総合評価に関していえば、精力的な学校訪問により教育行政の改善を実行していることが伝わる報告である。現場から吸い上がった課題が直ちに解決に至ることはなかなか難しいが、このような地道な取り組みは重要であり、評価「A」に相応しい。</p>	<p>○教育委員による学校訪問は、学校現場そして教育委員双方にとって極めて重要な活動である。教育委員会が正しい意思決定するためにも各学校の現状を一方的に聞き取るだけでなく、教育委員自ら学校現場の問題点を認識する意識で取り組んで頂きたい。</p> <p>また、今回の報告の大磯小学校での話題の一つに教員の勤務時間の記述があった。今後、教職員の多忙感とりわけ中学校における部活指導における問題（休日勤務等）、教職員の勤務状態についても引き続き問題意識を持ち続けて欲しい。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5)訪問(行事等)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○①「教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか」は、行事の訪問により「子どもたちの成長を共有し、交流が深まったと言える。」「見学だけ</p>	<p>○学校・園への訪問とは別に、それぞれの行事や教育委員会主催行事への参加をとおして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地</p>

<p>の行事もあるので、本質的なものは想像力をもって知ることになる。行事の性格に応じて、交流や意見交換ができた。」とあり、「A」評価は妥当である。</p> <p>②「各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか」は、それぞれの園や学校が各々の教育目標に則り、特色ある行事に取り組みながら児童生徒の成長を支えていることが理解できる。また、文化祭や企画展を通して、地域の様子や活動を理解する機会となっている等、「A」評価は妥当である。</p> <p>総合評価は、各行事は児童生徒や関係者の努力の成果を披露する場であり、それまでの様々な取組について理解を深め、意見交換する好機となっている。堅苦しくない雰囲気の中、子どもたちや地域住民と言葉を交わすことができたことから、「A」評価は妥当であろう。</p> <p>○学校にとって、さまざまな行事は児童生徒の発達上、非常に重要な活動であり、授業だけでは見えにくい人格的成長を見届けることができるものである。こうしたなか、教育委員各位の各学校・園への訪問は児童生徒の成長を目の当たりにする機会として非常に有意義であり、また限られた時間の中での訪問には敬意を表したい。</p> <p>項目①については、明示的な形では得られない情報が得られたことであろう。</p> <p>項目②においても、その行事に参加することにより児童生徒の活躍ぶりを参観することで、学校全体の取り組みや子どもたちの成長の理解が深まることは明らかであり、ともに評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価についても、大磯町内の学校の充実度そして教育委員の非常に多くの行事への参加実績を報告書からみると、評価「A」は妥当である。</p>	<p>域の取り組みについての認識と理解を深めることができる。その意味でも、本年度も多くの行事に参加し有意義な活動をされたことに敬意を払いたい。今後も、様々な行事に参加し、気軽な雰囲気の中で情報収集し教育行政に活かしていただきたい。</p> <p>また、各教育委員の見識を高めるためにも、「神奈川県市町村教育委員会連合会総会・意見交換会」や「神奈川県市町村教育委員会連合会研修会」また「関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会」には是非参加をしてほしいと願っている。</p> <p>○教育委員各位が限られた時間での、域内の学校・園への訪問には敬意を表するところである。しかし、委員各位の時間的制約や負担などを考慮し、訪問行事については毎年見直しをかけながらスクラップ&ビルトの意識をもって訪問行事の精選を図ってはどうか。あまりにも形式的な訪問に関しては見直していいと考える。</p> <p>また、小中連携だけでなく中高連携の視点に立つと、隣町の平塚には県立平塚中等教育学校がある。一方で域内には、県立大磯高等学校があり今後、高等学校との連携を視野に入れた取り組みへのアプローチも必要になると感じる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Ⅱ 「平成26年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育

《基本方針》

学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえ、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりの実現を目指します。

《目標》

1. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的人事交流も推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①教職員の研究・研修（かながわ学びづくり推進地域研究事業）
- ②ICTの整備・活用（タブレット端末導入・活用）
- ③中学校給食の検討（中学校給食実施に向けた調整）
- ④児童・生徒の体力向上（子どもの体力向上に向けた取組指針）
- ⑤学校施設の整備（国府中学校体育館等改修）

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 教職員の研究・研修 <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会から「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の委託を受け、「みんなで取り組む 分かる・楽しい授業の創造」を共通テーマとして設定し、2 小学校 2 中学校を研究推進校として実践研究に取り組んだ。各校の研究テーマを生かしながら、実践研究や研修を実施することができた。 ・各校の授業研究会や地区研修会への相互参加により研究内容の交流を図ることができた。 ・大磯町教育委員会の交付金事業として「大磯 	C	<p>○年間を通じて計画的に授業研究や研修会を実施する校内体制が定着し、学校全体として同じ方向性をもって研究を進めていく意識がより高まった。</p> <p>○各校の研究会へ相互に参加する意識が定着し、大磯町の強みである公立幼・小・中の連携がより深まった。</p> <p>□各校の研究テーマを交流することで、他校の実践から学ぶ環境を整えることができたが、町全体で共有し、どのように授業に活用して</p>

<p>学びづくり推進研究事業」を実施し、各校の研究の充実を図った。</p>		<p>いくつかについてのより具体的な取組が課題として残る。</p>
<p>② ICTの整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校コンピュータ室に児童・教師用タブレット PC を 44 台、中学校コンピュータ室に生徒用 40 台、教師用 2 台のコンピュータと 10 台のタブレット PC を導入整備した。 ・タブレット PC の積極的な活用を促すために、導入研修や活用事例を学ぶ研修会を教職員対象に開催した。 ・授業の導入部における課題の明示や電子黒板活用時の補助資料作成の際に有効なプレゼンテーションソフト活用研修会を教職員対象に開催した。 	<p>C</p>	<p>○タブレット PC の導入により、既存の ICT 機器と関連した活用や、児童・生徒の学習への興味・関心・意欲を高め、分かりやすい授業の実践ができるよう工夫した。また、活用事例を共有化することにより、より多くの教員が ICT 機器を活用した授業づくりに積極的に取り組むことができるように努めた。</p> <p>○タブレット PC 導入に対して、スムーズに活用がなされるように各校で導入研修を実施することができた。</p> <p>□ICT 機器の活用が不得意な教職員に対して、研修だけでなく学校単位での活用推進を促すとともに、より具体的な使い方等について実践を共有する必要がある。</p>
<p>③ 中学校給食の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会で策定した「中学校給食の導入に係る教育委員会検討会意見書」について、小・中学校の保護者を対象に説明会を開催し、意見や要望を聴取した。 ・説明会における意見を参考に、更なる保護者への周知と意見収集が必要と考え、改めて児童・生徒の全保護者に意見書の概要をまとめたパンフレットを配布し、合わせて自由意見を募集した。 ・「中学校給食の導入に係る教育委員会検討会意見書」に保護者意見を添えて町長に提出した。 ・政策会議にて、中学校給食を「調理・配送委託方式」にて実施することを決定した。 	<p>C</p>	<p>○「中学校給食の導入に係る教育委員会意見書」について、説明会の開催やホームページへの掲載により周知を進めることができた。</p> <p>○教育委員会で考える「調理・配送委託方式」での中学校給食実施について、保護者や児童・生徒の意向を確認することができた。</p> <p>○中学校給食実施の方向性を決定することができ、準備のための予算を一部確保することができた。</p> <p>□平成 28 年度中の中学校給食の実施に向け、準備すべき事項が多岐に渡るため、計画的に準備作業を進める必要がある。</p>
<p>④ 児童・生徒の体力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、各学校ではそれぞれ特色ある取組みを進めた。 ・各学校の取組みを、学期ごとに教育委員会事務局で集約し、学校長等の経営者会議や教頭 	<p>C</p>	<p>○各園・学校では、指針を意識した実践に年間を通して取り組むことができた。</p> <p>○各園・学校の実践を集約し共有することで、他園・学校の取組みを取り入れながらより質の高い実践にすることができた。</p>

<p>会において共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での新体力テスト計測とその結果を元に数値的に弱い運動種目の向上を目的として、東海大学の研究室と連携し取り組むことができた。 ・中学校武道指導の講師謝金を予算化し、中学校保健体育科で必修化された武道指導の充実を支援した。 		<p>□児童・生徒の体力向上については、短期的に成果を求めるのではなく、継続的に着実な取り組みを進めていく意識が必要である。</p> <p>園・学校として組織的な取り組みを進めるとともに、教育委員会事務局として園・学校の取り組みを支える施策を実施することが求められる。</p> <p>□体力向上に対する、幼・小・中を一貫する具体的な取り組みの共有。</p>
<p>⑤ 学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府中学校体育館等改修事業について、耐震診断調査委託を実施し、補強工事の実施に向け、設計委託に着手した。 	A	<p>○耐震診断調査委託について、予定工期の平成 26 年 10 月末で委託業務が完了した。</p> <p>□児童・生徒に快適な安全環境を提供するため施設の改修事業に取り組むことができたが、各施設とも老朽化が進んでおり、総合計画に位置付けるなど優先順位を付け、改修を行う必要がある。</p>

(3) 教育委員による評価

① 教職員の研究・研修

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より引き続き委託された事業の成果をもとに、各校の研究体制の定着や参加する意識が上昇するなど、施策が有効な広がりを示している。 ・学校教育の重要課題は知識を教えることはもちろんのこと、知識を活用する力を養い、思考力・判断力・表現力を育て、人として生きる力を習得させることを目的としている。これを目指して幼稚園・小学校の教員が計画的な研究研修を実施実行している。 ・交流を重ねた結果、幼保小中の連携が強まるとともに認識が高まり、研究や研修への積極的な参加が定着してきており、成果を実際の指導に活かしている様子は伺える。 ・若い先生（5年目まで）の研修会が多く見られる。 ・以上のことからC評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに得られた研究・研修の成果を授業の中でどのように活用するか、またその検証についても検討が必要である。 ・各校において計画的に授業研究や研修会を行う体制は確立したが、学校全体として同じ方向性を持って授業づくりを更に充実するよう意識の定着を図る必要がある。 ・研究や研修の成果を指導に活用する具体策を確立し、共有化を図ることが必要である。また、教科ごと、課程ごとに子どもたちの理解や関心の度合いを調査し、

	<p>取組みを見直すことも大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会やお互いの授業見学など活発に行われているように見受けられるが、ベテランの先生方も参加して学べると、現場での活かし方の参考になると思う。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② ICTの整備・活用

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校にタブレットやP Cを導入整備するとともに、I C T機器を有効に活用するために研修の充実に努め、「分かりやすい授業」の実践に努力している。 ・各校に確実に機材の導入が図られ、計画通りにいったことは評価できる。今後は更に教職員に対し、成果が出るよう期待したい。 ・タブレットP Cの導入により、さらに分かりやすく楽しい授業を実践できた。 ・科目によったり、中学、高学年の教室で若い先生を中心に活用が見られる。 ・以上のことからC評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂により学習内容が大幅に増加した中で、I C T整備は「分かる楽しい授業」のインフラ整備として今後も充実が望まれる。また、全ての教員が困難なく活用できるように研修を充実させるとともに、どのような場面でI C Tが有効なのか等、研究も進めたい。 ・機器の導入はスムーズに行っているが、不得意な教職員に対しては、より充実した対応ができるよう努力してほしい。 ・I C T機器の扱いに不慣れな教職員への対応は行われているが、いつでもどこでも自己学習できるよう使い勝手をマニュアル化することも必要である。 ・クラス（担任）によるばらつきがないように配慮する。

③ 中学校給食の検討

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食の導入に向けた「意見書」の町民への周知と意見・要望の聴取を行い、保護者や児童生徒の意向に可能な限り応えた実施を決定できた。 ・小・中学校の保護者の意見や要望を聴取し、また全児童・生徒の保護者に意見書の概要をまとめたパンフレットを配付することができたことは大いに評価できる。 ・食材や調理法など、心配な声がまだまだ聞かれる。 ・以上のことからC評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の第一義的な役割は家庭にあることから、中学校給食の今後の推進は家庭との連携を図りながら取り組み、給食を通じた食育の推進を図りたい。 ・平成 27 年度中の中学校給食の実施に向け、準備すべき項目が多岐に渡るため、計画に無理のないよう作業を進める必要がある。 ・今後は、給食費の徴収方法等、さらに具体的な検討が必要になる。今後とも生徒や保護者の理解を得ながら、慎重かつ丁寧に対応していくべきである。 ・保護者の心配な声に具体的な説明を。

④ 児童・生徒の体力向上

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児・児童・生徒の継続的な体力向上の取組みが求められる中、教育委員会事務局がコーディネーターとなり各校間の共有を進めるとともに、研究機関と連携し、具体的な取組みを図っている。 ・ 「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、各学校ではそれぞれが特色ある取組みを進めることができた。また学校長等の経営者会議や教頭会などで、その取組みを集約し、共有できたことは評価できる。 ・ 中学校における武道指導の充実が実現した。また、各園、各校とも特色のある体育指導を継続的に実践してきており、運動会等から成果が出ていることが感じられる。 ・ 各学校に体力向上の意識付けをできたのは評価できる。具体的に継続しているもの、特色のある取組みが見えない。 ・ 以上のことからC評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究機関や事務局のサポートも活用しながら、幼・小・中それぞれの発達段階と指針を考慮した特色ある取組みを継続し、児童生徒の体力向上に繋げたい。 ・ 今後とも、児童・生徒の体力向上については短期的な成果を求めるのではなく、長期的な着実な取組みをすすめていく考え方が必要である。 ・ 園や学校での体育指導のみならず、日々の生活に運動を取り入れるよう家庭の協力も仰いでいく必要がある。 ・ 全員が身体を動かす機会に工夫が必要と考える。

⑤ 学校施設の整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国府中学校体育館は耐震診断調査委託業務が予定通り終了し、判明した強度不足に対して速やかに改修に着手した。 ・ 国府中学校体育館等改修工事について、耐震診断調査や補強工事の実施など設計委託に着手できたことは評価できる。 ・ 耐震工事については、計画通り進捗している。 ・ 以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒にとって安全安心な環境を提供することは教育行政の責務であり、学校施設の整備を町と共に計画的に進める必要がある。 ・ 各施設の老朽化が進んでいる中、児童・生徒に快適な環境を提供するために、優先順位を付け、改修を行う必要が出てきた。 ・ 支援を必要とする生徒への配慮や中学校給食の導入に向けた施設整備を検討したい。 ・ 各施設の老朽化が多く見られる。電気がいつもチカチカしている。図書室の机や椅子も壊れている。

2 子育て支援

《基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子どもたち一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

《目標》

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられる「まち」を目指します。
また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できる「まち」を目指します。
5. 保育園における待機児童の解消に向けて、子育て世代のニーズに即した取組みを検討し実施します。
6. 平成 27 年度の子ども・子育て支援法の本格施行に向けて、大磯町子ども・子育て支援事業計画策定を行います。

（１）重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①子育て支援の充実
- ②放課後児童健全育成事業の充実
- ③幼稚園・保育園の連携
- ④保育園待機児童対策
- ⑤大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定

（２）課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 子育て支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・町で実施する子育て広場を集約化し、新たに保健センターでも開催し、東部つどいの広場を週４日に拡充した。 ・つどいの広場では、新たにお誕生会やリサイクル Day を毎月開催するとともに、ハッピー３世代交流会等を拡充することで、子育て中の親子が地域等との交流の機会を提供し 	B	○子育て支援総合センター（ ）は前年度来館者数・・・14,330 名（12,698 名） 相談件数・・・1,086 件（803 件） 東部つどいの広場 利用者数・・・4,211 名（2,204 名） 相談件数・・・534 件（131 件） ○母親講座（茶道教室、フラワーアレンジメ

<p>た。また、子ども発達相談員（心理士）の育児相談を6月から開催し、子どもの健やかな成長を育み、保護者の育児不安への解消を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就園児向けに子育て講座「学べるリトミック」を新たに開催したことで、長期休みにおける保護者の負担感への軽減を図った。 ・ファミリー・サポート・センターでは、研修会と座談会を開催し援助会員のスキルアップに努めるとともに、子育て中の保護者を交えて交流会を開催し、会員相互の交流を行った。 ・新たに子ども発達支援会議を設置し、適切な支援や関係機関の連携強化、児童を一貫して見守る体制づくりを促進した。また、子ども発達相談員（心理士）の配置、はぐくみサポートファイルの作成、特に配慮を必要とする児童の保護者の集いを開催した。 ・C S P（COMMON SENSE・ペアレンティング）トレーナーを新たに3名養成し、町立幼稚園等の子育て関連施設に配置し、子育て中の親子への見守りや相談機能強化を図るとともに、良好な親子関係を築くための育児力の向上を目的に、やさしい子育て練習講座「そだれん」を幼稚園で初開催した。 		<p>ント、利き脳お片づけ）・・・19回（20回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て講座（ベビーマッサージ、リトミック、そだれん、健康に関する講座、学べるリトミック）・・・43回（30回） ハッピー3世代交流会・・・4回（3回） ○ファミリー・サポート・センター <ul style="list-style-type: none"> 依頼会員数・・・88名（82名） 援助会員数・・・22名（19名） 利用件数・・・261件（173件） ○子ども発達支援会議・・・2回（実施無） ○子ども発達相談件数・・・184件（55件） ○海の子山の子教室 <ul style="list-style-type: none"> 参加児童数・・・12名（13名） 延参加児童数・・・295名（241名） □養育支援訪問事業及びファミリー・サポート・センター事業でのヘルパー等による育児・家事支援の実施
<p>② 放課後児童健全育成事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育については、大磯地区は社会福祉協議会に、国府地区は国府学童保育会に運営を委託することにより、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童を対象に、指導員を配置し、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図った。 ・子ども・子育て支援新制度の施行に伴う児童福祉法の改正により、放課後児童クラブ（学童）の質を確保するための設備及び運営について、町が基準を定めることとなり、条例を制定した。 ・放課後子ども教室については、ボランティアや星槎大学学生の協力により、放課後の子ども 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会と国府学童保育会に運営を委託し、適宜話し合いの場を持ち、円滑な運営に努めている。 <ul style="list-style-type: none"> ・大磯学童保育所入所児童数 85 人 ・国府学童保育所入所児童数 66 人 ○大磯町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例を制定した。 ○夏休み放課後子ども教室は、各小学校で5回実施した。（うち1回は大磯小で合同） <ul style="list-style-type: none"> ・大磯小学校 年間開催数 32 回 参加児童数 2,404 人 ・国府小学校 年間開催数 25 回

<p>もたちの安全な居場所づくりに努めた。また、神奈川大学やスポーツ団体と協力し、夏季休業期間を利用した「夏休み放課後子ども教室」を開催しイベントを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府学童保育所について、保護者の負担軽減及び民間事業者実施によるサービスの維持向上を目的とし事業者選定委員会を開催した。 		<p>参加児童数 2,185 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大磯町国府学童保育クラブ運営事業者選定委員会において事業者を選定し、平成 27 年 4 月から社会福祉法人恵伸会による委託運営を決定した。 □条例に規定した児童 1 人あたりの専用面積や支援の単位を構成する児童数、支援員の数を遵守するため、学童保育入所児童数が増加した際の保育スペースの確保 □放課後子ども教室の参加児童や実施回数の増加に伴う居場所及びスタッフの確保 □学童保育と放課後子ども教室の連携及び、全ての児童を対象とした放課後児童対策の検討
<p>③ 幼稚園・保育園の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前児童の育成を見据え、町内の幼稚園・保育園等が地区や園の枠組みを越えて一堂に会し出し物等を披露するイベント「いそっこフェスティバル」を開催し、児童や職員間の交流を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各園の代表から構成する運営委員会を 5 回開催し、円滑な運営に努めるとともに、職員間の交流を深めた。 □合併 60 周年記念事業として実施した事業であったが、小学校教育へ円滑に移行できるよう、年度事業として継続的な実施を検討
<p>④ 保育園待機児童対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の待機児童対策として、3 歳未満児の定員を増やすことを目的として、小規模保育事業所の施設改修等に対して補助を行った。 ・民間の力を活用して、平成 28 年度開設予定の認定こども園の設置計画の準備を進めた。 ・町立幼稚園における預かり保育の実施を週 2 回に拡充した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 27 年 4 月から、町の認可小規模保育事業所として、3 歳未満児の定員増（8 名）を図った。 ○平成 27 年 4 月に認定こども園の設置計画が承認された。 ○町立幼稚園における預かり保育の拡充により、短時間就労等の保護者に対する子育て支援を図った。 □大磯町子ども笑顔かがやきプランに基づく、待機児童の解消に向けた取組み
<p>⑤ 大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大磯町子ども・子育て会議を設置し、町の子育て支援の現状や、計画策定内容について審議した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学識経験者や保護者の代表、教育・保育関係者から構成する「大磯町子ども・子育て会議」を 6 回開催し、計画を策定した。

		<p>○新制度施行に伴い、未就学児を養育する保護者へ説明会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内施設等にて9回実施 ・延べ参加者数 252 人 ・新制度周知パンフレット作成 <p>□計画策定の周知及び進行管理</p>
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 教育委員による評価

① 子育て支援の充実

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度事業の成果や課題を検証し、平成 26 年度には相談・講座・交流事業拡充により多くの利用者を支援し、「子ども発達支援会議」の設置によって様々な子育て家庭へ目を向けた事業を推進している。 ・それぞれの多くの目的や計画等の実行は概ね実施できた。十分評価できる。 ・支援や相談の利用者は増加傾向にあり、事業の定着が図られている。 ・3世代交流会や母親講座など、コミュニケーション方法が多であり良い。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所で子育て支援を受けられる「まち」を目指す中で、事業周知を強化するとともに、利用者を待つばかりではなく訪問する等、様々な形態の支援事業が求められる。 ・多くの諸事業を抱えているので、一つ一つの計画が雑にならぬよう注意する必要がある。 ・利用が増えているということは潜在需要があるということであり、周知徹底、容量や回数の拡大が必要になる。また、需要の幅に合わせた新規事業についても今後の検討課題となる。 ・交流の場に出て来られない人向けにも訪問事業で支援を受けられるような展開を望む。

② 放課後児童健全育成事業の充実

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・運営の委託や他団体等との協力により学童保育や放課後子ども教室は児童の安全な居場所となっている。また町が条例を制定して質の向上を図っている。 ・放課後児童健全育成事業については、複雑多岐に渡る計画実行中で、概ね実施でき、町と町民の一体化を図ることができたことは評価できる。 ・学童保育を事業者へ委託できたことは、働く保護者の負担軽減につながったと言える。 ・放課後子ども教室の登録者、参加者が多い。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・町の推計では、将来の児童数の大きな減少はないが、就労を希望する保護者の増

	<p>加が予想されていることから、スペースや人員等の課題も検討し、本事業の充実を図りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの計画の中で、児童数など保育スペースなど配慮する項目が少なからずあり、改善に向けて努力する必要がある。 ・終業後の子どもの安全を確保するため、学童保育と放課後子ども教室連携及び全児童を対象とした放課後児童対策の検討は急務である。また、子どもの登校時刻より早く出勤しなければならない保護者のため、朝の子どもの居場所づくりも検討する必要がある。 ・子どもを預かるスタッフに講習会を望む。(最近の子どもの様子、トラブル解決法例など)
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

③ 幼稚園・保育園の連携

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・枠組みを越えたイベントの実施は園相互の連帯感を深め、保育活動の向上に寄与するとともに、心豊かな子どもの育成に資する連携である。 ・町内の幼稚園や保育園等が地区の枠を越えて一堂に会し、「いそっこフェスティバル」を開催し、町民との一体化を実現したことは大いに評価できる。 ・職員の交流や異動、「いそっこフェスティバル」の開催などから幼保の連携が円滑に行われていることがわかる。 ・いそっこフェスティバルの評判が良い。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前児童の育成を見据えた事業として年長児童を意識した内容を検討し、小1プロブレム解消を目指した継続的な実施を検討したい。 ・せっかく町民との一体化のできた行事を、今後も年度事業として継続的な実施を検討していくことが大事である。

④ 保育園待機児童対策

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・当面の対策として町立幼稚園の預かり保育を拡充し、今後の子育てニーズを考慮して認定子ども園設置計画を進めるなど将来を見据えた事業も推進している。 ・3歳未満児の定員を増やすことを目的として、小規模保育事業所の施設改修などにも補助を行うことができた。また、町立幼稚園における預かり保育の実施を週2回に拡充できたことは評価できる。 ・幼稚園での預かり保育や保育園の定員増は、需要に応じた対策である。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」に基づき、質・量共に安心して子どもを預けられる環境を整備することで待機児童ゼロを実現することが望まれる。 ・各事業は概ね計画通り実施できているが、大磯町子ども笑顔かがやきプランに基づく、待機児童の解消に向けた取組みは早急に対応できるよう努力すべきである。

	・幼稚園の預かり保育の曜日確定を望む声がある。
--	-------------------------

⑤ 大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・町は、子ども子育て関連３法に基づく新制度の実施主体として重要な役割を担うことから、「大磯町子ども・子育て会議」において新制度本格施行に向けた計画を慎重に審議し策定した。 ・「大磯町子ども・子育て会議」や説明会の実施を重ねたことにより、町民への周知を図られた。 ・伝わらないと評価につなげにくい。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」が推進される一方で、町民への計画の周知は大きな課題であり、具体的な施策を町民が利用できるよう情報発信方法の検討が必要である。 ・今後の課題として計画策定の周知や進行管理の充実を図りたい。 ・地域住民の子どもに対する関心の高さ、自然豊かで安全な環境など、大磯町ならではの特徴を活かした計画の策定が望まれる。 ・新制度の説明がよく解らないという声が多いので、説明会会場で個別の相談ブース（コーナー）があると良い。

3 生涯学習

《基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民が主体となった地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境整備を行い、成熟した生涯学習環境社会の実現を目指します。

《目標》

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らを高め、更に学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、コミュニティが充実し、人と人とのつながりが強くなる生涯学習のまちづくりを目指します。
3. 町民の財産である文化財を収集・保存し、文化芸術活動への支援や町民の活動を推進することで、町民が郷土の素晴らしさを再認識できる生涯学習のまちづくりを進めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理
- ② 中学生対象の被災地体験学習
- ③ 生涯学習館の環境整備
- ④ 人権啓発活動の推進措置
- ⑤ 文化財資料等の保存・活用

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理 ・生涯学習事業進行管理表により評価、課題等の把握を行った。 ・生涯学習推進会議を年2回開催した。	C	○担当課の自己評価だけでなく、アンケート回答の記述など、参加者の意見の把握に努めた。 □自己評価の標準化と各事業の周知方法について更に検討が必要である。
② 中学生対象の被災地訪問体験学習 ・「防災ミッション」と題し、中学生と準備を進め、宮城県南三陸町を訪問し、被災地の方々と交流し、体験談などを聞いた。 ・体験学習結果を壁新聞にまとめ、町内公共施設などで、展示・発表した。	B	○参加中学生は事前学習会から関わり、被災地巡検や訪問先住民との交流をとおして、貴重な体験をした。 □被災地の状況は時々刻々と変化しているので、事業の継続は困難である。 □中学生の体験学習の在り方を検討する必

		要がある。
③ 生涯学習館の環境整備 ・生涯学習館の耐震補強、トイレ等の改修工事を実施した。	B	○耐震補強は完了し、トイレ改修を行ったため利便性が向上した。 □施設利用の多機能化を図るため、更に施設改修を実施する必要がある。
④ 人権啓発活動の推進 ・「人権感覚を磨こう」をテーマに人権教育講演会を開催した。(H26. 11. 12) ・入庁1～3年目の職員(任期付含)を対象に人権研修会を実施した。(H26. 12. 15, 12. 17)	B	○人権研修会は職員研修会の位置づけとして定着しつつある。 □人権教育講演会の開催日程について引き続き検討する必要がある。
⑤ 文化財資料等の保存・活用 ・「大磯宿小島本陣資料」を町指定有形文化財に指定した。 ・文化財の保護・利活用を図るため新設した「大磯町文化財利活用奨励交付金」を2件交付した。 ・「大磯町文化財ガイドブック」を作成し、各公共施設等に配布した。	B	○文化財専門委員会の答申を得て、町指定有形文化財の指定ができた。 □「大磯町文化財ガイドブック」を初め、文化財の更なる周知、利活用の途を検討する必要がある。 □埋蔵文化財に関して、専門的知識が必要な事例が増えているため、対応が必要である。

(3) 教育委員による評価

① 「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理

評 価	・本計画は2013年度から8年間で計画期間として開始してから2年目となるが、アンケート回答を評価の材料に加えるなど課題の把握に努め、生涯学習会議において計画の進行管理について審議されている。 ・十分な把握が難しい推進計画の進行管理の中で、どこまで計画を進めることができるか手探り状態の解消を早急になくすことが大事である。 ・生涯学習においては、外部の評価を把握することは大切である。 ・参加者の意見把握に努めた。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	・多方面から施策を展開する本計画を着実に進行するため、各事業の具体的な展開の一部として周知方法の検討も必要である。 ・自己評価の標準化と各事業の周知について更なる検討が必要である。 ・意見をどう活かしたかが必要。

② 中学生対象の被災地訪問体験学習

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う中学生にとって、被災地訪問体験は貴重な学習機会となった。また、準備から結果発表までを中学生主体の進行としたことは、効果的な防災教育と言える。 ・被災地の方々との交流や体験談などを聞いて、今後の対策に役立てるよう努力していくことが肝要である。 ・ただの訪問にとどまらず、現地の方々が必要としている支援活動に携わったことは有意義であった。また、被災地の現状や現地での経験を発表する機会を設けたことで、子どもたちが人のために役立つことの大切さを知るとともに防災意識の向上にもつながったと言える。 ・準備から体験、新聞等でまとめる作業、被災地を訪問したことで気付いたことを発表している。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の今日的課題や対象年代に応じた特色ある学習機会を提供するために、体験学習も含めた生涯学習の検討を進めたい。 ・このような計画の継続は困難であるが、これらの行動をヒントに新しいボランティア活動など理解が得られるような活動の展開もあっていいと思える。 ・子どもたちが社会貢献する機会は必要である。被災地のみならず、子どもでも活動できる支援の場は定期的に提供したい。 ・発表に工夫がほしかった。事業、支援は形を変えてでも継続する必要がある。

③ 生涯学習館の環境整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強とトイレの改修が完了し、利用者に安全で快適な生涯学習環境を提供できた。 ・それぞれの環境整備は計画通り行われた。 ・名所の中継地点ということもあり、トイレの改修は観光客のためにもなった。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・町の生涯学習の拠点の一つとして利用が多いため、計画的な整備を進めたい。 ・施設利用の更なる利便性と求め、努力していく必要がある。 ・楽器演奏、舞踏など多様な用途に対応するため、改修は継続的に必要となる。 ・施設改修の必要があるところは改修し、集しやすい環境を提供する必要がある。

④ 人権啓発活動の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・町民一人ひとりの人権意識を高めるために企画されたいる講演会が、研修会としても定着しつつある。 ・計画通り人権啓発活動の推進がなされた。 ・職員や子どもたちへの啓発は、継続的に行われており、定着してきていると言え
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>る。</p> <p>・以上のことからB評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会の日程は多くの町民が参加できるよう配慮が必要である。 ・啓発内容を教育活動に活用できるよう、保育園・幼稚園・学校関係者の参加も継続したい。 ・人権教育の講演内容や開催日時について、更なる検討が必要である。 ・家庭での教育を踏まえ、子育て世代への人権啓発も必要である。 ・講習会があったのは分かったが、具体的なことが見えなかった。

⑤ 文化財資料等の保存・活用

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護事業の一環として大磯町の歴史・文化を伝える資料に対し交付金を利用して保護を図るとともに、町文化財に指定するなど適切に対応している。 ・地味な活動であるが、一定の評価をしたい。 ・文化財の登録やガイドブックの作成など、保存や活用に関わる活動を実践してきた。 <p>・以上のことからB評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の調査研究には考古学など専門的な知識が求められることから、必要な措置が求められる。 ・保存されている資料などが町民に親しまれる文化財となるよう、活用を検討したい。 ・文化財ガイドブック等の作成は大切であるが、町民等にも配布できる普及版等の発行にも気を遣ってほしい。 ・専門家による鑑定が必要なものについては、県や国の支援が得られないものか。 ・郷土をよく理解するためにも、小学校、中学校の授業で扱える資料の作成、配布。出張授業。

4 図書館

《基本方針》

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書斎としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

《目標》

1. 多様化する町民ニーズに応える、豊かな心を養う「読書」が活用され、一層親しみをもち図書館が活用されるよう読書環境の整備に努めます。
2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。特に、幼児期の人格形成・知恵の習得に役立つような本と出会える機会を作り、図書館が「本とのふれあいの場」として活用されることを目指します。
3. 情報発信拠点としての図書館の老朽化に伴い施設を改修し、生涯学習の拠点として快適な空間となるよう環境の整備を推進します。

（１）重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①資料の整備・収集と提供の充実
- ②子ども読書活動の推進
- ③学校図書館の電算化の推進
- ④図書館施設の計画的な整備

（２）課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 資料の整備・収集と提供の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・毎週１回選定委員会会議を開催して、「週刊新刊全点案内」を中心に図書の選定を行なった。 ・一般書、児童書の月毎のテーマ別図書展示をボランティアと協働で行い、読書普及に努めた。 ・視聴覚資料（ＣＤ）の月毎のテーマ別展示を始め、利用普及に努めた。 ・国府分館蔵書約 2,000 冊の入替えを行い。蔵書を更新した。 	A	<p>○町民のニーズや資料の利用状況、社会動向を把握し、各分野の資料を収集して、蔵書整備に努め、4,554 冊の図書、98 点の視聴覚資料を購入した。</p> <p>○26,151 件の予約・リクエストを受付、22,119 件は所蔵図書、967 件は購入図書、2,046 件は県内の図書館からの借用図書、1,019 件は所蔵視聴覚資料（ＣＤ）を提供した。</p> <p>○9,711 冊の図書を除籍し、図書館まつりの古本市に出品するなど、ボランティアと協働で図書のリサイクルを行なった。</p>

<p>② 子ども読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなしボランティア養成講座として、「ようこそ！絵本、紙芝居の世界へ」を開催した。 ・ブックスタートをはじめとして、3歳までのおはなし会、おはなしと紙芝居、幼稚園・保育園図書館見学、小学校4年生の学級招待など子どもたちの発達段階に応じた行事を実施した。 ・図書館が推薦する図書のスタンプラリーを年間を通じて実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○おはなしボランティア養成講座を開催して、25人の受講があり、図書館・幼稚園・保育園や小学校等で活動するボランティアの人材の育成に努めた。 ○子どもたちの発達段階に応じた行事の実施により、読書習慣や図書館利用のきっかけづくりを推進し、児童書の貸出点数は 53,284 点あった。 ○1,219冊の推薦図書のスタンプラリーに210人の参加があった。 □ボランティアの連携の強化と新しい人材を育成する必要がある。
<p>③ 学校図書館の電算化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大磯、国府両小学校図書館のパソコンに蔵書・発注管理システムを導入した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○大磯、国府両小学校図書館の購入図書の発注、受入の電算化を図った。 ○大磯、国府両小学校図書館の蔵書の電算化を進めた。 □図書館と学校図書館のネットワーク化に向け、電算システム、物流システムの検討が必要である。
<p>④ 図書館施設の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した空調設備の改修を平成25・26年度の2ヵ年間で実施し、平成26年度分（Ⅱ期）の空調設備改修工事として、エアーハンドリングユニット（大型空気調和機）2台の交換とチラーユニット（熱源機）1台の設置、給排気ファン14台の交換を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○施設を休館しないで、部分的な閉鎖に留め、利用者への影響を最小限にして、改修工事が実施できた。 ○利用者に快適な読書環境を提供するための施設整備を推進できた。 □施設・設備の改修・更新計画を具体化し、計画的に実施していく必要がある。

（3）教育委員による評価

① 資料の整備・収集と提供の充実

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書資料の充実は図書館の目的の一つであることから、町民ニーズや利用状況等をきめ細かく分析し、魅力的な蔵書の整備が実現している。 ・地道な作業ではあるが、不断の努力が常に必要な部分であり、安定した作業に一定の評価をしたい。 ・蔵書の更新は、利用拡大につながる。 ・以上のことから A 評価が妥当である。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の予約やリクエストに応えるために購入や他地区の図書館から借用するなど丁寧な対応がなされ、「町民の図書館」として身近な存在になっていることから、今後もサービス充実を継続していきたい。 ・蔵書の更新、除籍とともに重要なのはレファレンスである。レファレンスが活発に行われている例を見学するなど、職員に研修の機会があるとよい。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② 子ども読書活動の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の健全な成長の一助となる読書活動について、発達段階に応じた行事を実施し多くの書籍が貸し出されていること、また「おはなしボランティア」養成により、子どもの読書活動のきっかけ作りに努めている。 ・それぞれの行事や活動に対し、表に出てくる成果が目に見えるわけではないが、地道にやりとげることで、大きな評価につながっていくことで多くの理解が得られる。 ・講座やおはなし会の開催、ボランティア育成、小学生による見学など、定期的に活動を推進することは、子どもの読書習慣に役立つ。 ・以上のことから A 評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはなしボランティア」は子ども読書活動の一翼を担っていただく人材であることから、育成と連携の強化を図りたい。 ・ボランティアの育成や人材の確保が必要なところであり、多くの方々の協力が必要になってくる。 ・子どもが気軽に立ち寄り、居場所として利用できるよう子どもに特化したレファレンスを行える専門職員がいるとよい。 ・子どもたちの図書館利用のきっかけづくりは今後、更に必要になってくると考えるので、続けてほしいし、他の学年でも行い、定着させたい。

③ 学校図書館の電算化の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書推進事業として学校図書館との連携を計画的に進めている。 ・学校図書館の電算化の推進は全国的には早い方なのか、遅い方なのかは知り得ないが、今後の業務には役立つと言える。 ・ボランティアの協力のもと、長年の夢であった蔵書の電算化が実現した。同時に文科省が定める公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準に達していないことがわかった。 ・以上のことから B 評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館との連携の準備が進む中、ネットワーク化に向けた課題を早急に解決し、児童生徒の読書や学習環境の整備につなげる必要がある。 ・これらのシステムを使いこなす必要がある。 ・学校図書館への新規図書投入は急務である。

	・蔵書電算化は、作業が多くて大変そう。
--	---------------------

④ 図書館施設の計画的な整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への影響に配慮して、2ヵ年計画の改修工事が完了した。 ・図書館施設の計画的な整備がようやくでき、利用者の利便性ができて十分評価できる。 ・利用者への配慮から休館することなく改修することは大切である。 ・工事による影響が利用者に最小限で済んだこと。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は生涯学習の拠点の一つとして重要な施設であることから、計画的な老朽化対策が必要である。 ・今後とも施設・設備の改修等は利用者のより理解を得られるよう努力してほしい。 ・計画は長期的な視野をもって策定されるべき。 ・気軽に利用しやすい、明るい雰囲気、スペースづくりも必要かと思われる。

5 郷土資料館

《基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

（１）重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①展示リニューアル推進と収蔵資料の環境整備
- ②旧吉田茂邸再建事業の推進
- ③展示・教育普及活動の充実

（２）課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 展示リニューアル推進と収蔵資料の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度に策定した郷土資料館展示リニューアル基本設計に基づき、実施設計を行った。 ・収納容積を増やすことを目的に、東蔵に特注軽量物品棚を設置した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○展示リニューアル工事に向けて着実に業務を進めることができた。 ○東蔵の収容能力が高まった。 □資料の整理、保管について、引き続き整備を進めていく必要がある。
② 旧吉田茂邸再建事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度の基本設計、平成 25 年度の実施設計に基づき、再建工事に着手した。 ・旧吉田茂邸再建検討会議を設置し、利活用について協議した。 ・旧吉田茂邸開館後の主要展示物のひとつとして館内に放映するため、吉田茂についてドキュメンタリー性の高い映像を制作した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○再建工事を着実に進めることができた。 ○開館後の利活用について、方向性をまとめることができた。 ○吉田茂の事績を紹介する効果的な展示映像を制作することができた。 □開館後の展示物を目録化し、整備を進めていく必要がある。
③ 展示・教育普及活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・年間で 5 回の企画展を開催した。 （①企画展「収蔵動物標本展」、②企画展「相模湾のウミガメ」、③大磯町合併60周年記念企画展「地図と風景写真から見る大磯」、④企画展「大磯町の文化財」、⑤企画展「昭和の子供たちー子供の遊びとくらしー」） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの企画展、ワークショップを開催したこともあって、年間の入館者数が 5 年ぶりに 3 万人を超えた（年間入館者 30,335 人）。 ○平成 25 年度のワークショップの実施状況と比較して、回数が 51 回から 73 回、参加

<ul style="list-style-type: none"> ・継年的に実施してきたワークショップを引き続き実施した。 (古文書裏打ちクラブ、古文書解説クラブ、石仏クラブ、大磯自然観察会、海の森クラブ、海の教室) ・新規に2種類のワークショップを実施した。 (民俗調査「昔の遊び調査隊」、合併60周年記念事業ワークショップ「大磯町の移り変わりを探してみよう」) 	<p>人数が延べ521人から延べ686人と増えた。新たな学習機会を設けたことで、参加者の増加につながった。</p> <p>□今後の展示企画等について、継続的な研究、準備が必要である。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 教育委員による評価

① 展示リニューアル推進と収蔵資料の環境整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって魅力ある展示となるよう、リニューアルが計画的に進められ、また収蔵資料の整理保管が工夫改善されている。 ・展示リニューアル推進と収蔵資料の環境整備が計画通り実施されたことは大いに評価できる。 ・限られたスペースを有効に利用するための整理が実施できた。 ・資料整理も燻蒸も的確な時期に定期的に行われている。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・町の歴史文化を発信する拠点の中心であることから、リニューアルによって郷土資料館の魅力が増し利用者の増加が望まれる一方で、資料の整理保管は地道な継続が常に求められる。 ・資料の整理、保管については、これでいいと言えないので、今後も引き続き整備の必要がある。 ・今後さらに収納品が増えることを想定し、計画的に整理を進めていくことが大切である。量が多く、劣化しやすい紙媒体の資料は、デジタルデータに変換するなどの対応も必要になってくる。 ・町の博物館として、展示は、あらゆる世代の関心を集められなければならない。

② 旧吉田茂邸再建事業の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき建物の再建工事に着手し、利活用についても検討会議を設置して広く意見を求めながら着実に進められている。 ・再建工事が動き出したが、事業の推進が順調に進むことを祈りたい。ここで特記したいことは、「吉田茂」についてのドキュメンタリー性の高い映像の制作は大いに評価できる。 ・再建後の利活用計画の策定、ドキュメンタリー映像の製作など開館に向けた準備が着実に進行している。
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・旧吉田茂邸は町のランドマークの一つであり、再建を町内外に広く情報発信するとともに、魅力的な展示や活用が期待される。 ・開館後の内容について、まだ整備の必要があるように思う。 ・観光名所とすべく、国内外からの来客を見込んだ準備が必要である。 ・開館の際は隅々まで展示物や雰囲気を楽しめるように案内の仕方を工夫することを望む。

③ 展示・教育普及活動の充実

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展は年間企画の工夫が入館者数の増加につながっている。また、ワークショップも新たな企画を加えて町民の参加機会を増やすなどの充実が図られている。 ・年間5回の企画展が開催できたことは評価できる。内容も充実しており、町の活性化にも役立っていると理解している。 ・企画やワークショップが多く、関心を集め、資料館としての機能を十分に果たした。 ・企画展、ワークショップ、入館者数の増。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者のアンケート等を通して町民の要望を研究しながら、地域住民と一体となった魅力ある活動の継続が必要である。 ・改善というよりも、今後も更に様々な企画内容を考えていくことの大切さや、努力が必要で、是非がんばってほしい。 ・今後とも魅力ある企画を提供できるよう、絶えず調査研究を行うことが大切である。

Ⅲ 資料編

1 関係法令

(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）（抜粋）

（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有するものの知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

- ①今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ②現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取り組みを行っている場合は、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者からの意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/1409290410029.html>

3 平成 26 年度 教育委員会基本方針

平成 26 年 2 月 19 日大磯町教育委員会第 11 回定例会で決定

大磯町教育委員会では、教育委員会の活動に対し、自らの点検・評価及び外部評価を実施し、その責任体制の明確化や体制の充実を図るとともに、地方教育行政の推進に努めてまいりました。

大磯町教育委員会は、幼稚園教育要領及び小・中学校学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、子育てから義務教育行政を一貫して実施していく体制をさらに強化する中で、学校関係者、保護者及び地域住民との連携を深めながら、様々な教育課題や子育て支援に関する課題に取り組みます。また、生涯学習推進計画に基づき、生涯学習の充実に努めるなど、教育委員会活動のさらなる活性化に向け努力していきます。

《義務教育の基本方針》

学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえ、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりの実現を目指します。

【目標】

1. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的な人事交流も推進します。

【重点施策】

1. 小学校・中学校

- (1) 県教育委員会から平成 25 年度に引き続き「かながわ学びづくり推進地域研究事業」の委託を受け、各学校において、児童・生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、「分かる楽しい授業の創造」に向けた実践研究・研修を実施します。
- (2) 各学校において、ティームティーチング(*)や少人数指導、目標に準拠した評価等、指導法の工夫改善の研究に努めます。
- (3) 小学校低学年での実施を基本として 35 人学級編制を実施します。また、中学校における生徒指導及び進路指導等の課題に対応するため、必要に応じ、35 人学級編制の実施を支援します。
- (4) 幼児・児童・生徒の連続的な学びと成長を図るため、幼稚園・保育園と小学校及び小学校と中学校の連携を継続して進めます。
- (5) 教職員の専門性や指導力向上に向けた研修、電子黒板・デジタルテレビ・タブレット P C 等 I C T(*)関連機器の効果的な活用についての研修等の充実に努めます。また、いじめ・体罰防止のための研修、適正な評価処理の研修など安全管理及び教員の事故・不祥事防止に努めます。
- (6) 各学校における「食育」の推進のため、大磯町で策定した「第 2 次大磯町食育推進計画」と各

学校における「食育の全体計画・食育の年間計画」を基に、栄養教諭による小・中学校への情報提供や授業支援などのサポート体制も活用し、食に関する指導を積極的に実践します。また、中学校給食については、教育委員会の意見書に基づき、その実現に向けて学校や関係機関と引き続き調整を進めていきます。

- (7) 児童・生徒の実態に応じて教育支援員を配置するとともに、相談支援チーム体制を充実させ、支援教育の一層の推進を図ります。
- (8) いじめ・不登校をはじめとする様々な課題に対して、スクールアドバイザー（*）を中心に、各学校の教育相談コーディネーター、スクール・カウンセラー、心の教室相談員などの相談支援体制を充実するとともに、指導協力員（小・中・適応指導教室）による個に応じた指導等を強化して、教育相談及び児童生徒指導体制について一層の充実を図ります。
- (9) 読書活動の推進のため、学校図書館の整備と学校図書館司書の配置の充実を図ります。また、子どもたちがより一層読書に親しむ機会と推奨すべき図書の提供に向け、学校図書館のシステム化を進めるとともに、大磯町立図書館との連携を図ります。
- (10) 開かれた学校づくりを進めるため、学校とPTA・地域・関係諸機関との協議・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、地震や津波などに対する防災対策や防犯・安全体制の一層の強化に努めます。
- (11) 児童・生徒の体力向上について、「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、指針策定初年度の取組み状況を検証し、引き続き各学校で特色ある取り組みを推進します。
- (12) 国府中学校体育館等改修について、耐震診断調査委託を実施し、必要に応じ、耐震補強工事及び改修工事を行います。
- (13) 児童・生徒用コンピュータについて、タブレット型PCの導入を含めた更新を実施し、ICT（*）を活用した教育の充実を図ります。

2. 教育研究所

- (1) 教職員の自主的な研修ならびに調査・研究の充実を図ります。小学校社会科副読本「わたしたちの大磯」及び理科副読本「大磯の自然（植物編）」改訂に向けた準備作業を進めます。
- (2) 教職員を対象に人権研修を始めとした研修の機会を設定し、教職員の資質向上・指導力向上を図ります。また、児童・生徒を対象とした講座を開催します。
- (3) 教育研究所に配置しているスクールアドバイザーや適応指導教室専任教諭により、生活面や学習面で発達の・心理的・情緒的な問題を抱えている子どもたちに対する支援を行い、その保護者や関係教職員に対する教育相談等を行います。
- (4) 教育研究の拠点となるよう書籍類、研究資料等の収集・整理を進め、活用を図ります。

《子育て支援の基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子どもたち一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

〔目標〕

- 1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたく

ましい園児の育成を目指します。

2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられる「まち」を目指します。
また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できる「まち」を目指します。
5. 保育園における待機児童の解消に向けて、子育て世代のニーズに即した取組みを検討し実施します。
6. 平成 27 年度の子ども・子育て支援法の本格施行に向けて、大磯町子ども・子育て支援事業計画策定を行います。

〔重点施策〕

1. 町立幼稚園では、教育支援員の配置やAET(*)の派遣とともに、預かり保育を拡充することで子育て支援を推進します。
2. 保育園では、引き続き、特別に支援が必要な園児への保育を実施するとともに、延長保育・一時保育・休日保育等の保育サービスの充実に努めます。
3. 新たに策定された「第2次大磯町食育推進計画」に基づき、町立幼稚園・保育園における「食育」を推進するとともに、保育園では、引き続き3歳児以上の完全給食を実施します。
4. 町立幼稚園・保育園内外の防犯・安全体制づくりを推進します。また、地震や津波などに対する防災対策の強化に努めます。
5. 子ども・子育て支援新制度の施行に向けて、子育て世代のニーズに対し必要な保育を提供する施設等への助成を検討し、待機児童対策を進めます。
6. 幼稚園及び保育園から小学校へ円滑に移行し小1プロブレム(*)を解消できるよう、共同で行事を開催するなど連携を図ります。
7. 「放課後児童健全育成事業」の充実を図るとともに「放課後子ども教室推進事業」の拡充を行い、小学生の豊かな放課後の居場所づくりに努めます。
8. 子育て支援総合センターにおいて、子育て中の保護者に対し育児相談や母親講座を実施するとともに子育て支援情報等を提供していきます。
また、つどいの広場、ファミリー・サポート・センター事業の拡充を行います。
9. 子育て支援総合センターを拠点とし、児童虐待・子ども発達支援等について、関係機関との連携を図りながら子育て・親育ちの支援体制づくりを行います。
10. 私立幼稚園に通う園児等の保護者に対し、引き続き保育料などの補助を行います。
11. 平成 27 年度から始まる子ども・子育て支援新制度への移行作業を行い、大磯町子ども・子育て支援事業計画策定を行います。

《生涯学習の基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民が主体となった地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境整備を行い、成熟した生涯学習環境社会の実現を目指します。

〔目標〕

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らを高め、更に学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、コミュニティが充実し、人と人とのつながりが強くなる生涯学習のまちづくりを目指します。
3. 町民の財産である文化財を収集・保存し、文化芸術活動への支援や町民の活動を推進することで、町民が郷土の素晴らしさを再認識できる生涯学習のまちづくりを進めます。

〔重点施策〕

1. 「大磯町生涯学習推進計画」を指針とした生涯学習を推進するため、生涯学習推進会議を開催し、事業の検証を行い要望や課題を整理するとともに、事業へのフィードバック等について議論します。
2. 町民の主体的・自主的な活動への支援となる「生涯学習人材登録」と県生涯学習システム「PLANETかながわ」を活用した情報提供に努めます。
3. 課題や対象年代に応じた特色のある学習機会の提供を図ります。中学生対象の被災地訪問体験学習を開催し、被災地を実際に訪問します。また、生涯学習館に最新機種のパソコンを順次導入し、学習環境を整備していきます。
4. PTAや子ども会による家庭教育学級の開催支援や、ファミリー教室の開催の充実を図り、学校・家庭・地域との連携による生涯学習の推進に努めます。
5. 青少年指導員、PTA連絡協議会、その他関係団体と協力して、青少年の健全育成に努めます。
6. 芸術・文化の活性化を図るため、文化祭運営委員会との連携を図り、「おいそ文化祭」について、参加団体の自主的な取組みを支援し、特色ある事業を開催します。
7. 社会教育施設（生涯学習館、図書館、郷土資料館）をはじめとした生涯学習関連施設・機関との連携を図り、生涯学習の推進に努めます。
8. 生涯学習館の耐震診断結果に基づき、使用者に安心・安全な環境を提供するための耐震防災工事を実施します。また、トイレの改修、案内表示の設置、アプローチの修繕を行い、使用者にとってより快適な環境をつくっていきます。
9. 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりのため、一人ひとりの人権意識を高めることのできる人権教育講演会の開催をはじめ、各種の学習機会を提供することで人権への理解を深めます。
10. 文化財資料等の保存・活用を図るため、調査等により蓄積された資料の整理を行なうとともに、町合併 60 周年記念事業として、町の文化財ガイドブックを作成します。
11. 町内に所在する指定文化財等の候補について、文化財専門委員会への諮問等、指定に向けた手続きを進めます。
12. 文化財の保全を図るために定期的な巡回調査を行うとともに、文化財を火災から守るため、消防署等との連携による文化財防火巡回及び文化財消防訓練を実施します。

《図書館の基本方針》

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書斎としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

〔目標〕

1. 多様化する町民ニーズに応える、豊かな心を養う「読書」が活用され、一層親しみをもち図書館

が活用されるよう読書環境の整備に努めます。

2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。
特に、幼児期の人格形成・知恵の習得に役立つような本と出会える機会を作り、図書館が「本とのふれあいの場」として活用されることを目指します。
3. 情報発信拠点としての図書館の老朽化に伴い施設を改修し、生涯学習の拠点として快適な空間となるよう環境の整備を推進します。

〔重点施策〕

1. 町民ニーズに対応するため、図書情報の把握に努め、時代にあった蔵書・資料の整備に努めます。
2. ボランティア入門講座、児童文学講演会、ブックスタート(*)、ブックトーク(*)、ブックリストの作成、「読書の時間」(*)の推進など、子どもたちの読書・学習環境の整備を進めます。
3. 小学校4年生の学級招待、幼稚園及び保育園の図書館見学を行うことにより、豊富な本の中から自分に合った本に出会うことで、本に対する関心が深まるよう、活動を推進します。
4. 図書館の老朽化の激しい空調設備については、空調機の機器の更新、ファンコイルユニット(*)及び給排気ファンの交換を行い、整備を進めます。

《郷土資料館の基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

〔目標〕

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

〔重点施策〕

1. 昨年度に引き続き、資料整備事業の一環として、収蔵方法の改善に努め、現収蔵スペースを有効活用することで、資料のより良い保存環境を整備するとともに、様々な方法による資料活用の可能性を広げます。
2. 資料のデータベースを構築し、資料の効果的管理及び積極的活用を行います。
3. 旧吉田茂邸再建後の博物館活動を視野に、吉田茂関連資料の調査及び整理を継続します。
4. 開館から 25 年間の活動を活かし、新しい大磯町の博物館へと踏み出すべく、これまで検討してきた常設展示や設備のリニューアルに着手します。
5. 広報紙やインターネット等、多様な媒体を活用するとともに、地域に密着した情報ネットワークを駆使し、町民に積極的に働きかけることで、効果的な広報活動を行います。
6. 地域の情報を幅広く且つ深く掘り下げる機会として、常設展示とは異なる角度から、地域の歴史や文化を見直すテーマに着目した企画展を開催するとともに、参加体験型学習の場であるワークショップを開催します。利用者や他施設と連携・協働した博物館活動を展開し、地域の文化的拠点としての役割を果たします。
7. 合併 60 周年を記念して、関連する企画展示及びワークショップを行います。
8. 策定された旧吉田茂邸再建の基本設計・実施設計に基づき工事を行うとともに、再建後の利活用について事業推進を図るための活動を行います。

【*用語の解説】

ティームティーチング

複数の教師が協力して行う授業方式の一つ。略称TT。リーダーの教師を中心として、何人かの教師たちが協力しあい、授業を行う。

ICT

Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する[技術一般](#)の総称である。[従来](#)用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられるもので、「[コミュニケーション](#)」が加わっている点に[特徴](#)がある。

スクールアドバイザー

各学校において支援体制の構築及び相談機能の充実、教職員との協力体制を密にする目的で教育研究所に配置した臨床心理士。

AET

Assistant English Teacherの略。英語指導助手。日本人の教師とチームで授業を行う外国人講師。ALT (Assistant Language Teacher) ともいう。

小1プロブレム

小学校に入学したばかりの児童が集団行動をとれない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数ヶ月継続する状態。

ブックスタート

一人ひとりの赤ちゃんに、絵本を開く楽しい体験と一緒に、絵本を手渡す活動。本町では4ヶ月児健診時に実施している。

ブックトーク

テーマを決め、何冊かのさまざまなジャンルの本をテーマに関連付けながら紹介し、本への興味を喚起すること。主に児童（小学生）を対象に実施している。

読書の時間

家庭での読み聞かせ及び家庭での共通の話題となるような、図書の充実と啓発活動のこと。

ファンコイルユニット

室内から空気を取り、エアーフィルタで塵埃を取り除き、温度・湿度を調節し送風機へ送風する、簡易な空気調和機のこと。

平成 27 年度（平成 26 年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

発行者 大磯町教育委員会

編集者 教育部 学校教育課

〒255-8555 大磯町東小磯 1 8 3

☎ : 0463-61-4100 / FAX : 0463-61-1991

ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/index.html>

発 行 平成 27 年 11 月